

## 授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング1	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野 大輔		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
養成目的や教育目標、1年次の到達目標、科目間のつながりを理解し、主体的に学習、他者と協働する上で、必要な知識やスキルを説明することができる。									
【学習内容】									
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、主体的な姿勢で学習、他者と協同して学ぶための基盤となるスキル、職業観や就労間などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につける授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業ごとに配布する教材資料					振り返りを通して、得た気づきを行動で実践してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2 4/3	【授業単元】 導入教育①② ～Teams・学校生活について～					【授業単元】			
	【到達目標】 クラスメイトとともに学習する環境を整えることができる。					【到達目標】			
3・4 4/4	【授業単元】 導入教育③④ ～学校生活について～					【授業単元】			
	【到達目標】 クラスメイトとともに学習する環境を整えることができる。					【到達目標】			
5・6 4/5	【授業単元】 導入教育⑤⑥ ～振り返り・強みを発見・目標設定～					【授業単元】			
	【到達目標】 クラスメイトとともに学習する環境を整えることができる。					【到達目標】			
7・8 4/12	【授業単元】 導入教育⑦⑧ ～授業オリエンテーション～					【授業単元】			
	【到達目標】 クラスメイトとともに学習する環境を整えることができる。					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
【授業単元】					【成績評価の方法と基準】				
【到達目標】					講義全体を100点満点とし、レポート等による定期テストを科目の評価は、定期テスト60点、毎回授業の小テスト等40点の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。毎回授業の小テストは、各回10点満点(計40点)とする。 ・試験は筆記試験(レポート)で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主体的に参加をしましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング2	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野 大輔		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1年次の到達目標や科目間のつながりを理解するとともに、主体的な姿勢で学習するために必要な習慣やLMSの活用方法、他者と協働して学ぶための基盤となるスキル、職業観や勤労観などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につけることができる。									
【学習内容】									
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、主体的な姿勢で学習、他者と協働して学ぶための基盤となるスキル、職業観や就労観などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につける授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業ごとに配布する教材資料					計画・実行・振り返りを通して、得た気づきを行動で実践してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 他者との協同について①	【到達目標】 クラスメイトとともに相互支援の関係を築くことができる。			9	【授業単元】 他者との協同について(プロジェクト学習)	【到達目標】 クラスメイトとともに学習する環境を整えることができる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
2	【授業単元】 他者との協同について②	【到達目標】 クラスメイトとともに相互支援の関係を築くことができる。			10	【授業単元】 特別授業"ソーシャルワーカー"	【到達目標】 ソーシャルワークを実践している先生からの特別授業を通して、目指す将来像について考える事ができる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
3	【授業単元】 主体的に学ぶ	【到達目標】 主体的に学ぶ習慣や環境を整えることができる。			11	【授業単元】 スポーツフェスティバル	【到達目標】 スポーツフェスティバルにおいて、クラスメイトや他学科とともに協同することができる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
4	【授業単元】 LMS・仮想空間の利用について	【到達目標】 LMSや仮想空間の活用についてクラスメイトとともに考え・実践することができる。			12	【授業単元】 振り返り(スポーツフェスティバル)	【到達目標】 スポーツフェスティバルの振り返りを通して、協同・主体的を振り返り・言語化することができる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
5	【授業単元】 主体的に学ぶ(スマホ教室)	【到達目標】 主体的に学ぶ習慣や環境を整えることができる。			13	【授業単元】 主体的に学ぶ(学習)	【到達目標】 クラスメイトとともに主体的に学習する環境を整えることができる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
6	【授業単元】 仮想空間・実習システムの利用について	【到達目標】 仮想空間や実習システムの活用についてクラスメイトとともに考え・実践することができる。			14	【授業単元】 特別授業"IT×ソーシャルワーク"	【到達目標】 IT×ソーシャルワークを実践している現場の取り組みを通して、目指す将来像について考える事ができる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
7	【授業単元】 他者と協同(スポーツフェスティバル)	【到達目標】 主体的かつ協同的にスポーツフェスティバルの準備を進めることができる。			15	【授業単元】 定期試験 振り返り	【到達目標】 学びや気づきを言語化することを通して、実践することができる。		
	【到達目標】					【到達目標】			
8	【授業単元】 計画と振り返り 中テスト	【到達目標】 主体的かつ協同的にスポーツフェスティバルの準備・スマホ教室の振り返りを進めることができる。			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】				講義全体を100点満点とし、レポート等による定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験(レポート)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主体的に参加をしましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング2		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	高野 大輔		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科		学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】										
1年次の到達目標や科目間のつながりを理解するとともに、主体的な姿勢で学習するために必要な習慣やLMSの活用方法、他者と協働して学ぶための基盤となるスキル、職業観や勤労観などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につけることができる。										
【学習内容】										
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、主体的な姿勢で学習、他者と協働して学ぶための基盤となるスキル、職業観や就労観などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につける授業を展開する。										
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】				
授業ごとに配布する教材資料						振り返りを通して、得た気づきを行動で実践してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 主体的に学ぶ				10	【授業単元】 主体的に学ぶ(実習) 中テスト				
	【到達目標】 クラスメイトとともに学びやすい関係や環境を築き・習慣化することができる。					【到達目標】 学園祭の振り返りを通して、協同・主体的を振り返り・言語化することができる。				
2	【授業単元】 LMSの活用について(プロジェクト学習)				11	【授業単元】 主体的に学ぶ(実習)				
	【到達目標】 クラスメイトとともにプロジェクト学習を効果的に進めることができる。					【到達目標】 実習に向けてクラスメイトとともに主体的に準備をすることができる。				
3	【授業単元】 主体的に学ぶ				12	【授業単元】 特別授業"IT×ソーシャルワーク"				
	【到達目標】 クラスメイトとともにプロジェクト学習を主体的・効果的に進めることができる。					【到達目標】 IT×ソーシャルワークを実践している現場の取り組みを通して、目指す将来像について考える事ができる。				
4	【授業単元】 他者と協働について				13	【授業単元】 特別授業"IT×ソーシャルワーク"				
	【到達目標】 クラスメイトとともに学習する環境を整えることができる。					【到達目標】 IT×ソーシャルワークを実践している現場の取り組みを通して、目指す将来像について考える事ができる。				
5	【授業単元】 他者との協働について(学園祭)				14	【授業単元】 主体的に学ぶ				
	【到達目標】 協同的に学園祭の準備を進めることができる。					【到達目標】 授業や行事、現場体験の行動を振り返る事を通して、自らの今後の行動につなげることができる。				
6	【授業単元】 他者との協働について(学園祭)				15	【授業単元】 定期試験 振り返り				
	【到達目標】 協同的に学園祭の準備を進めることができる。					【到達目標】 学びや気づきを言語化することを通して、実践することができる。				
7	【授業単元】 他者との協働について(学園祭)					【授業単元】				
	【到達目標】 協同的に学園祭の準備を進めることができる。					【到達目標】				
8・9	【授業単元】 主体的に取り組む(学園祭)					【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 学園祭において、クラスメイトや他学科とともに主体的に協同することができる。					講義全体を100点満点とし、レポート等による定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験(レポート)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(10回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】										
主体的に参加をしましょう。										

## 授業概要

科目名	チャレンジプログラム1	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野 大輔		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域や社会の様々な資源の見学や体験、講演やディスカッション等を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について説明することができる。									
【学習内容】									
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、地域社会や現場の実際を現場体験に向けて、これからの社会の姿や解決が必要な地域課題を理解する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業ごとに配布する教材資料					振り返りを通して、得た気づきを行動で実践してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2 4/12	【授業単元】 導入教育①② ～行動計画・自己実現等～					【授業単元】			
	【到達目標】 将来像をより創造する実現にむけて主体的な行動を促すことができる。					【到達目標】			
3・ 4・5 4/13	【授業単元】 導入教育③④⑤ ～現場体験・ボランティア等～					【授業単元】			
	【到達目標】 クラスメイトとともに現場体験を行う環境を整えることができる。					【到達目標】			
6・ 7・8 4/14	【授業単元】 導入教育⑤⑥ ～特別プログラム～					【授業単元】			
	【到達目標】 クラスメイトとともに学習(チャレンジプログラム2)する環境を整えることができる。					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
	【授業単元】					【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
主体的に参加をしましょう。					講義全体を100点満点とし、レポート等による定期テストを科目の評価は、定期テスト60点、毎回授業の小テスト等40点の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。毎回授業の小テストは、各回10点満点(計40点)とする。  ・試験は筆記試験(レポート)で行う。				

## 授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム2	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野 大輔		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域や社会の様々な資源の見学や体験、講演やディスカッション等を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。									
【学習内容】									
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、地域社会や現場の実際を現場体験中心に体験を通して、これからの社会の姿や解決が必要な地域課題を理解する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業ごとに配布する教材資料					現場体験や各プロジェクトで行う施設や概要について調べ、そして体験した内容についてまとめる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1. 2. 3・4 4/21	<b>【授業単元】</b> ・オリエンテーション～チャレンジプログラム2・SDGsアプリ・スマホ教室～ ・現場体験前授業 <b>【到達目標】</b> ・チャレンジプログラム2の目的・目標を述べるができる。 ・現場体験先の概要を説明することができる。				33. 34. 35. 36 6/23	<b>【授業単元】</b> ・現場体験 <b>【到達目標】</b> ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。			
5. 6. 7・8 4/28	<b>【授業単元】</b> ・計画(スマホ教室) ・現場体験前授業 <b>【到達目標】</b> ・スマホ教室の目的・目標として、地域のデジタルデバйд解消について述べるができる。 ・現場体験の目的・目標を述べるができる。				37. 38. 39. 40 6/30	<b>【授業単元】</b> ・スマホ教室 ・SDGsアプリ <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバйдの実際について述べるができる。			
9. 10. 11. 12 5/12	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・準備(スマホ教室)・現場体験前授業 <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・現場体験に向けて、身構え・気構え・心構えの具体的な行動を自らの言葉で述べるができる。				41. 42. 43. 44 7/14	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・スマホ教室 <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバйдの実際について述べるができる。			
13. 14. 15. 16 5/19	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・スマホ教室 <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバйдの実際について述べるができる。				45. 46. 47. 48 7/21	<b>【授業単元】</b> ・現場体験 <b>【到達目標】</b> ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。			
17. 18. 19. 20 5/26	<b>【授業単元】</b> ・現場体験前授業 ・プロジェクト学習 <b>【到達目標】</b> ・現場体験に向けて、身構え・気構え・心構えの具体的な行動を自らの言葉で述べるができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。				49. 50. 51. 52 7/28	<b>【授業単元】</b> ・スマホ教室 ・現場体験後授業 <b>【到達目標】</b> ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバйдの実際について述べるができる。 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。			
21. 22. 23. 24 6/2	<b>【授業単元】</b> ・現場体験 <b>【到達目標】</b> ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。				53. 54. 55. 56 8/4	<b>【授業単元】</b> ・振り返り(SDGsアプリ) ・振り返り(スマホ教室)・現場体験後授業 <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリ・スマホ教室の振り返りを通して、気付きや次の計画・行動を具体的に述べるができる。 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。			
25. 26. 27. 28 6/9	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・プロジェクト学習 <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。				57. 58. 59. 60 8/11	<b>【授業単元】</b> ・現場体験(発表会) ・特別授業 <b>【到達目標】</b> ・現場体験の発表会を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。 ・特別授業を通して、ITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。			
29. 30. 31. 32 6/16	<b>【授業単元】</b> ・現場体験 <b>【到達目標】</b> ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、発表等による定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
現場体験を通して、多くの気づきを得るために主体的に参加をしてください。									

## 授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム2	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	高野 大輔			
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	120 時間	
【授業を通じての到達目標】										
地域や社会の様々な資源の見学や体験、講演やディスカッション等を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。										
【学習内容】										
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、地域社会や現場の実際を現場体験中心に体験を通して、これからの社会の姿や解決が必要な地域課題を理解する授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
授業ごとに配布する教材資料					現場体験や各プロジェクトで行う施設や概要について調べ、そして体験した内容についてまとめる。					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1・2・3・4・9/8	<b>【授業単元】</b> ・オリエンテーション～チャレンジプログラム2・SDGsアプリ・スマホ教室～ ・現場体験前授業  <b>【到達目標】</b> ・チャレンジプログラム2の目的・目標を述べるができる。 ・現場体験先の概要を説明することができる。				34・35・36・37・11/1・11/3	<b>【授業単元】</b> 11/1・スマホ教室 11/3・プロジェクト学習  <b>【到達目標】</b> ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。				
5・6・7・8・9/15	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・現場体験前授業 ・プロジェクト学習  <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・現場体験の目的・目標を述べるができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。				38・39・40・41・11/1・0	<b>【授業単元】</b> 現場体験  <b>【到達目標】</b> 地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。				
9・10・11・9/22	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・スマホ教室  <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。				42・43・44・11/1・7	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・プロジェクト学習  <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。				
12・13・14・15・9/29	<b>【授業単元】</b> ・現場体験  <b>【到達目標】</b> ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。				45・46・47・48・11/2・4	<b>【授業単元】</b> ・現場体験  <b>【到達目標】</b> ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。				
16・17・10/4	<b>【授業単元】</b> ・スマホ教室  <b>【到達目標】</b> ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。				49・50・51・52・12/1	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・特別授業 ・現場体験後授業  <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・特別授業を通して、実習に向けて具体的な行動を述べるができる。 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。				
18・19・20・21・10/6	<b>【授業単元】</b> ・プロジェクト学習 ・スマホ教室  <b>【到達目標】</b> ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。				53・54・55・56・12/8	<b>【授業単元】</b> ・振り返り(SDGsアプリ・スマホ教室) ・現場体験後授業  <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリ・スマホ教室の振り返りを通して、気付きや次の計画・行動を具体的に述べるができる。 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。				
22・23・24・25・26・27・28・29・10/1・3・10/2・7	<b>【授業単元】</b> ・SDGsアプリ ・スマホ教室  <b>【到達目標】</b> ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。				57・58・59・60・12/1・5	<b>【授業単元】</b> ・現場体験(発表会) ・特別授業  <b>【到達目標】</b> ・現場体験の発表会を通して、地域社会の実際やITを活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。 ・特別授業を通して、実習について述べるができる。				
30・31・32・33・10/2・0	<b>【授業単元】</b> ・プロジェクト学習 ・スマホ教室  <b>【到達目標】</b> ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、発表等による定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は発表で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
現場体験を通して、多くの気づきを得るために主体的に参加をしてください。										

## 授 業 概 要

科目名	統計の基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	梅崎 宏樹		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
医療・福祉分野だけでなく、現在さまざまな領域で統計学は活用されています。「統計の基礎」の授業では、そもそも統計学はどんな学問なのかを知ることから始め、統計学で用いられる分析方法やその分析結果からどのようなことがわかるのかデータを読めるようになることを目指します。その手立てとして、実際の統計学を用いた分析の事例などを紹介し、解説します。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
講義形式で統計学の基礎的な考え、集計と分析方法などについて学び、アプトットされた数値の読み方も学んでいきます。また、集計されたデータから統計解析を行った事例を紹介しながら、受講する方の統計学への理解を深めてもらおうと考えています。外部の専門家による特別授業なども検討しています。私自身の経験としては、市場調査会社で調査データの分析を担当、心理系大学院では量的データを活用した研究を行ってきました。臨床心理学におけるアンケート調査の結果と分析、結果の解釈についての事例なども紹介します。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
講義時に講義資料を配布します。					授業で学んだ内容の復習。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 初回のオリエンテーション。講師紹介と「統計の基礎」の講義全15回の内容についての解説します。				9	【授業単元】 医療・介護等の現場で行われているデータ活用について(外部講師)			
	【到達目標】 統計の基礎で行う授業について、受講者に講義の流れを把握していただくことを目指します。					【到達目標】 市民情報学に基づいた認知症医療・介護のデータ活用の事例について理解する。			
2	【授業単元】 統計学の概論				10	【授業単元】 重回帰分析について(1)			
	【到達目標】 統計学とはどのような学問か具体的な事例なども提示理解することを目指します。					【到達目標】 重回帰分析について学びます。分析を行う上での条件から、結果の読み方の理解を目指します。			
3	【授業単元】 量的データと質的データと記述統計における代表値(平均値、中央値、最頻値の理解)				11	【授業単元】 重回帰分析について(2)			
	【到達目標】 量的データと質的データの違いの違いと、代表値の中でも平均値の特徴について理解することを目指します。					【到達目標】 重回帰分析を用いた事例を紹介し、分析結果を理解することを目指します。			
4	【授業単元】 データの散らばりについて				12	【授業単元】 因子分析について(1)			
	【到達目標】 データの散らばりについて、分散、標準偏差、共分散に関する理解することを目指します。					【到達目標】 因子分析の考え方について理解します。			
5	【授業単元】 分散、標準偏差、共分散の復習と相関について				13	【授業単元】 因子分析について(2)			
	【到達目標】 4回目の講義で学んだ分散、標準偏差、共分散の復習とそこから導かれる相関に関する理解を目指します。					【到達目標】 因子分析を使った事例を紹介し、データがしめす意味を理解します。			
6	【授業単元】 相関と相関係数の見方				14	【授業単元】 「統計の基礎」で講義した内容について復習			
	【到達目標】 相関の意味を理解することを目指します。また、相関から因果関係を読むことはできない点も理解します。					【到達目標】 代表値、分散、相関、回帰分析、因子分析などこれまで「統計の基礎」で講義した内容についておさらいをします。			
7	【授業単元】 単回帰分析				15	【授業単元】 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 単回帰分析について、一次関数をモデルに理解することを目指します。					【到達目標】 講義で扱った統計学の知識やデータの解釈について、理解度を確認します。			
8	【授業単元】 中間試験				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 前回まで説明した統計学に関する知識と、分析の結果を読むことを課題とします。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
この講義では数学的な計算をすることは求めません。今後、統計的に算出された数値を読み、理解し、解釈できるようになることを目指しています。									

**授 業 概 要**

科目名	AI利活用入門	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	堀 延 之		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー 科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
これからの社会において、AIと人がどのように「共存」していくのかについて、AIについての基礎的な知識をもとにフォローおよび予測し、かつ他者に説明することができる。 今後医療福祉分野等において、AIを利活用し多職種と連携して働くための基盤となる基礎知識と視点を獲得する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
大学院にて行為論・心の哲学を専門領域とし、人間の意思決定プロセスにおける心の位置づけやAIと人間の諸活動の比較について研究した教員が、AIに関する最新の研究動向や社会における利活用の実際をふまえ、「AIとの共働き」を見越した基礎的な視点と知識を身につける授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
「文系AI人材になる 統計:プログラム知識は不要」野口竜司著(東洋経済新報社)					インターネット等を活用し、AI業界の最新動向やAI活用事例について情報収集を行う				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 AIを利活用するこれからの社会の姿をイメージする				9	【授業単元】 AIの基礎用語を理解する①			
	【到達目標】 「AI」についての自身の現時点での理解を言語化することができる。 Society 5.0について調べ、その概要を具体的に述べる事ができる。					【到達目標】 AIに関わる仕事に必要な基礎用語について理解し説明することができる。			
2	【授業単元】 「AIとの共働き」スタイルを理解する				10	【授業単元】 AI基礎用語を理解する②			
	【到達目標】 AIとの5つの共働きスタイルについて説明することができる。 共働きスタイル別のAIの活用例を探し示す事ができる。					【到達目標】 AIに関わる仕事に必要な基礎用語について理解し説明することができる。			
3	【授業単元】 AIを「作る」と「使う」の違いを理解する				11	【授業単元】 AIの作り方の概略を通して基礎用語を確認する①			
	【到達目標】 AIを構築する方法のバリエーションの違いを比較することができる。 AIを搭載したアプリを調べ使用してみる。					【到達目標】 予測系AIの作成のおおまかなステップを示すことができる。			
4	【授業単元】 文系AI人材の仕事を理解する				12	【授業単元】 AIの作り方の概略を通して基礎用語を確認する②			
	【到達目標】 文系AI人材の担う役割を説明できる。 AIと働く力を身につけるためのステップを示すことができる。					【到達目標】 識別系・会話系・実行系AIの作成のおおまかなステップを示すことができる。			
5	【授業単元】 AIの基本を理解する①				13	【授業単元】 AI活用のアイデアカと企画力を磨く①			
	【到達目標】 コンピューターやAIの歴史について理解しおおまかな流れを説明することができる。					【到達目標】 事例をもとにAIの企画と開発のプロセスを理解し、これまでの学びと関係づける。			
6	【授業単元】 AIの基本を理解する②				14	【授業単元】 AI活用のアイデアカと企画力を磨く②			
	【到達目標】 AI・機械学習・ディープラーニングの違いを理解し説明することができる。					【到達目標】 事例をもとにAIの企画と開発のプロセスを理解し、これまでの学びと関係づける。			
7	【授業単元】 AIの基本を理解する③				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 学習方式の3類型(教師あり/教師なし/強化学習)の分類を説明することができる。					【到達目標】 全範囲のふりかえりを行なうとともに、試験により知識の定着を確認する。			
8	【授業単元】 前半の総復習および中間テスト				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 小テストについては、各回の学習活動に応じ、記述式小テスト・プレゼンテーション等を併用して評価を行う。 定期試験は、学習内容をふまえ、筆記試験(語群選択問題・記述問題等)により出題する。 評価基準は学則施行細則に基づき、小テスト40点定期試験60点満点にて評価する。				
	【到達目標】 前半の重要事項について再確認し理解を深めることができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
教科書の学習箇所について事前に目を通し、不明点や理解が難しいことを明確にして授業に臨むことで有意義に参加することができます。また理解したことを他者にアウトプットし知識の定着を図ることを心がけてください。									



## 授業概要

科目名	AIの基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
AIに関連する基礎概念や用語を理解するとともに、GUIツールを活用し実際にAIを構築することでAIの作り方を理解する。									
【学習内容】									
AIの基礎を理解し、医療福祉分野のAI活用において社会に貢献することができるスキルと知識を身につける。AIの利用による社会的影響や倫理的問題についても学び、授業の取り組みを行いながら、AIを利用した技術革新が持つ可能性を最大限に引き出す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書は特になしとする。実践的に用いるAIに関するGUIツールのマニュアル・webサイトを参考にする。					AIに関連する理解を深め、校外のAIに関するコンテストイベントにエントリーし、プロンプト作成を行う。活動を通じて、プロンプトの評価をしあう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 AIの基礎概念				9	【授業単元】 自然言語処理			
	【到達目標】 AIの定義、AIの分類、AIの応用分野、AIの現状などについて学ぶ。					【到達目標】 単語の埋め込み、文の分類、機械翻訳などについて学びます。			
2	【授業単元】 機械学習の基礎				10	【授業単元】 画像認識			
	【到達目標】 機械学習の概要、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の違いや用途について学ぶ。					【到達目標】 CNN、転移学習、オブジェクト検出などについて学びます。			
3	【授業単元】 データの前処理				11	【授業単元】 音声認識			
	【到達目標】 データの収集、クリーニング、変換、データの欠損値処理などについて学ぶ。					【到達目標】 音声認識システムの構成、ディープラーニングモデルの構築、アプリケーションなどについて学びます。			
4	【授業単元】 モデルの選択				12	【授業単元】 強化学習			
	【到達目標】 モデルの種類、選択基準、適切なモデルの選び方について学ぶ。					【到達目標】 報酬関数、状態、行動、価値関数などについて学ぶ。			
5	【授業単元】 モデルの評価				13	【授業単元】 モデルの最適化			
	【到達目標】 モデルの性能評価指標、混合行列、ROC曲線などについて学ぶ。					【到達目標】 遺伝的アルゴリズム、粒子群最適化、進化戦略などについて学ぶ。			
6	【授業単元】 AIの教師あり学習				14	【授業単元】 倫理とAI			
	【到達目標】 回帰分析、決定木、ランダムフォレスト、サポートベクターマシンなどについて学ぶ。					【到達目標】 AIの利用による社会的影響、倫理的問題、バイアス、フェアネス、倫理的な意思決定などについて学ぶ。			
7	【授業単元】 AIの教師なし学習				15	【授業単元】 AIの応用に向けて			
	【到達目標】 クラスタリング、主成分分析、異常検出などについて学びます。					【到達目標】 AIの応用に向けて、AIを利用した実践例について学ぶ。			
8	【授業単元】 深層学習				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワーク、再帰型ニューラルネットワークなどについて学びます。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で6段階(A~F)で評価する。 小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Form)による試験)で行う。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テストは該当授業単元の成果物制作・発表をもって代替して評価することがある。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
AIが対象とする分野やテーマに対するデータの状況・法整備・関連組織の構造にも興味をもって、取り組む。									

## 授 業 概 要

科目名	情報リテラシー	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 ブレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ教室の実施内容を検討し、必要な項目を整理して準備できる</li> <li>・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる</li> <li>・Wordを利用し、複合文書を作成できる ・Excelを利用し、表計算や表、グラフを作成できる</li> </ul>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
滋慶学園グループの企業である(株)ブレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 CCT入門1 web検索、マウスの操作、PCトラブル時の解決方法				9	【授業単元】 メールマナーⅠⅡ			
	【到達目標】 検索力を身につけ問題を解決できる					【到達目標】 マナーを守り、メールを作成送信できる			
2	【授業単元】 CCT入門2 ITリテラシー 滋慶学園 ITリテラシー理解度テスト				10	【授業単元】 スマホ教室準備			
	【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる					【到達目標】 スマホ教室当日の進捗と、自分の役割を把握して実践できる			
3	【授業単元】 Wordダイジェスト				11	【授業単元】 ポスター作成<院内ポスター>			
	【到達目標】 文書作成の基本的な操作ができる					【到達目標】 Wordの機能を使用し、色彩や配色を意識したポスターを作成できる			
4	【授業単元】 Excelダイジェスト				12	【授業単元】 スマホ教室準備			
	【到達目標】 計算機能を使用した表作成とグラフ作成ができる					【到達目標】 スマホ教室当日の進捗と、自分の役割を把握して実践できる			
5	【授業単元】 プレゼン応用A アンケート作成、分析				13	【授業単元】 ビジネス文章作成 <タイピング東京>			
	【到達目標】 COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート作成と集計ができる					【到達目標】 効率的にタイピングを			
6	【授業単元】 スマホ教室準備				14	【授業単元】 Word試験対策 テスト前のWord総復習			
	【到達目標】 スマホ教室の実施内容を検討し、必要な項目を整理して準備できる					【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる			
7	【授業単元】 スマホ教室準備				15	【授業単元】 Word定期試験、振り返り			
	【到達目標】 スマホ教室当日の進捗と、自分の役割を把握して実践できる					【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる			
8	【授業単元】 中テスト スマホ教室の振り返り点をWordで作成				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験はPCを使用した書類作成を行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 規定のフォントや必須条件に従い、Wordのレポート作成ができる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

## 授 業 概 要

科目名	情報リテラシー	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ教室での気づきや学びをスライドにまとめ、発表できる</li> <li>・Excelの応用的な関数や、シート間集計を学び、目的に応じたデータ処理を実践できる</li> </ul>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 Excel応用A				9	【授業単元】 プレゼン基礎1+スマホ教室プレゼン資料作成			
	【到達目標】 データベース機能を理解し活用できる					【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる			
2	【授業単元】 スマホ教室準備				10	【授業単元】 プレゼン基礎2+スマホ教室プレゼン資料作成			
	【到達目標】 スマホ教室当日の進捗と、自分の役割を把握して実践できる					【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる			
3	【授業単元】 Excel応用C				11	【授業単元】 プレゼン基礎3+スマホ教室プレゼン資料作成			
	【到達目標】 応用的な関数を活用できる					【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる			
4	【授業単元】 スマホ教室準備				12	【授業単元】 プレゼン基礎4+スマホ教室プレゼン資料作成			
	【到達目標】 スマホ教室当日の進捗と、自分の役割を把握して実践できる					【到達目標】 画像とグラフの効果的な活用ができる			
5	【授業単元】 Excel応用E				13	【授業単元】 プレゼン基礎5+スマホ教室プレゼン資料作成			
	【到達目標】 応用的な関数を活用できる					【到達目標】 効果的なアニメーション効果の設定、データの共有方法について理解し活用できる			
6	【授業単元】 スマホ教室準備				14	【授業単元】 プレゼン基礎6+スマホ教室プレゼン資料作成			
	【到達目標】 スマホ教室当日の進捗と、自分の役割を把握して実践できる					【到達目標】 効果的なスライド作成の手法を理解しスライドを作成できる			
7	【授業単元】 Excel試験対策				15	【授業単元】 プレゼン発表定期試験 振り返り			
	【到達目標】 Excel講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					【到達目標】 スマホ教室での気づきや学びをスライドにまとめ、発表できる			
8	【授業単元】 Excel試験				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は作成したスライドで発表をおこない、スライドの内容を評価する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Excel資料を作成できる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

## 授 業 概 要

科目名	情報テクノロジー概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識をもち、担当業務に対して情報技術を活用していこうとする。									
【学習内容】									
職業人として備えておくべき、情報技術に関する共通的な基礎知識を習得し、担当する業務に対して情報技術を活用する次の知識を習得する。① 利用する情報機器およびシステムを把握し、活用する。② 担当業務を理解し、その業務における問題の把握および必要な解決を図る。③ 安全に情報の収集や活用を行う。④ 業務の分析やシステム化の支援を行う。⑤ 担当業務において、新しい技術(AI、ビッグデータ、IoTなど)および新しい手法の情報の収集、活用を推進する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書は特になく、ITパスポート試験シラバスVer.6を参考文書とする。「試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など」Ver.4.3を参考文書とする。業務を理解に資するwebサイトを教材とする。					資格取得を促すための情報の収集や活用を行う。校内の業務分析やシステム化の支援をする。校外のコンテストイベントにエントリーし、作品開発を行う。それぞれの活動で戦略性・マネジメント・品質を評価しあう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (ストラテジ1/4)システム戦略	【到達目標】 戦略論、情報システム戦略の意義と目的、戦略目標、業務改善、問題解決などに向けた考え方を習得する。	9	【授業単元】 (テクノロジー5/8)コンピュータシステム	【到達目標】 コンピュータの基本的な構成と役割、OS、システム構成を習得する。				
2	【授業単元】 (ストラテジ2/4)経営戦略	【到達目標】 SWOT分析、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)、顧客満足度、CRM、SCMなどの代表的な経営情報分析手法や経営管理システムに関する基本的な考え方を習得する。	10	【授業単元】 (マネジメント1/3)開発技術	【到達目標】 要件定義、設計、プログラミング、テスト、ソフトウェア保守などシステム開発のプロセスの基本的な流れを習得する。				
3	【授業単元】 (ストラテジ3/4)企業と法務	【到達目標】 企業活動や経営管理に関する基本的な考え方を習得する。知的財産権、セキュリティ関連法規、個人情報保護法、労働基準法、労働者派遣法、その他の取引関連法規などの法律を習得する。	11	【授業単元】 (マネジメント2/3)プロジェクトマネジメント	【到達目標】 プロジェクトマネジメントの意義、目的、考え方、プロセス、手法を取得する。				
4	【授業単元】 (ストラテジ4/4)システム企画	【到達目標】 システム化計画、現状分析などに基づく業務要件定義の考え方を習得する。見積書、提案依頼書(RFP)、提案書の流れなど調達的基本的な流れを習得する。	12	【授業単元】 (マネジメント3/3)サービスマネジメント	【到達目標】 ITサービスマネジメントの意義、目的、考え方を習得する。				
5	【授業単元】 (テクノロジー1/8)情報デザイン	【到達目標】 情報デザインのための技術、考え方を取得する。	13	【授業単元】 (テクノロジー6/8)情報メディア	【到達目標】 音声、静止画、動画などの表現の基本的な仕組みを習得する。				
6	【授業単元】 (テクノロジー2/8)アルゴリズムとプログラミング	【到達目標】 プログラミングおよびHTML・XMLなどのデータ記述言語の種類とその基本的な使い方を取得する。	14	【授業単元】 (テクノロジー7/8)セキュリティ	【到達目標】 ネットワークに関するLANやWANの種類と構成、インターネットやLANの接続装置の役割、IPアドレスの仕組み、移動体通信の規格、通信プロトコルの役割、情報セキュリティの考え方を習得する。				
7	【授業単元】 (テクノロジー3/8)データベース	【到達目標】 データベースおよびデータベース管理システム(DBMS)の意義、目的、考え方を習得する。	15	【授業単元】 (テクノロジー8/8)基礎理論	【到達目標】 コンピュータの基本的な構成と役割、ソフトウェア、入出力装置、2進数の特徴や演算を習得する。				
8	【授業単元】 (テクノロジー4/8)ネットワーク	【到達目標】 ネットワークに関するLANやWANの種類と構成、インターネットやLANの接続装置の役割、IPアドレスの仕組み、移動体通信の規格、通信プロトコルの役割、情報セキュリティの考え方を習得する。	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で6段階(A～F)で評価する。小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formによる試験)で行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テストは該当授業単元の成果物制作・発表をもって代替して評価することがある。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自分が好きなこと(好きなテーマ、取り組みたいテーマ)を発見し、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

## 授 業 概 要

科目名	情報テクノロジー演習1	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中山圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
3種の活動(① 学科全員で公的資格ITパスポートの取得を目指すチーム活動(以下、IPプラットフォーム活動) ② 校内の業務分析やシステム化の支援(以下、校内ICT支援活動) ③ 校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントのエントリー(以下、コンテスト活動))を題材にして、どのような情報システムが必要か戦略・仕組みを検討するとともに、情報システムの実践的な構築と運用を行う。									
【学習内容】									
職業人として備えておくべき、情報技術に関する共通的な基礎知識を習得し、担当する業務に対して情報技術を活用する次の実践を行う。① 利用する情報機器およびシステムを把握し、活用する。② 担当業務を理解し、その業務における問題の把握および必要な解決を図る。③ 安全に情報の収集や活用を行う。④ 業務の分析やシステム化の支援を行う。⑤ 担当業務において、新しい技術(AI、ビッグデータ、IoTなど)および新しい手法の情報の取集し、活用を推進する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書は特になしとする。「ITパスポート試験シラバスVer.6」を参考文書とする。「試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など」Ver.4.3」を参考文書とする。業務を理解に資するwebサイトを教材とする。					校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Dataチャレンジ、アーバンデータチャレンジ、チャレンジ!!オープンガバナンス、エントリー時期は後期)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 システム戦略				9	【授業単元】 中間報告発表			
	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動のためのグループウェアやオフィスツール、SNSなどを利用した効果的なコミュニケーションについて演習する。業務モデルにおけるモデリングを演習する。					【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について中間報告発表を行う。			
2	【授業単元】 経営戦略				10	【授業単元】 開発技術			
	【到達目標】 実在の企業をテーマにして、SWOT分析、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)などの経営情報分析手法を用いた演習をする。					【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、要件定義、設計、プログラミング、テスト、ソフトウェア保守などのシステム開発の演習をする。			
3	【授業単元】 企業と法務				11	【授業単元】 プロジェクトマネジメント			
	【到達目標】 校内ICT支援活動や実在の企業を題材にして、企業活動や経営管理、知的財産権、セキュリティ関連法規などの法律の演習をする。					【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、プロジェクトマネジメントの演習をする。			
4	【授業単元】 システム企画				12	【授業単元】 サービスマネジメント			
	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、システム化計画、現状分析などに基づく業務要件定義、見積書、提案依頼書(RFP)、提案書の流れなど調達の基本的な流れを演習する。					【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、ITサービスマネジメントの演習をする。			
5	【授業単元】 情報デザイン				13	【授業単元】 情報メディア			
	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報デザインの演習をする。					【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報メディア活用の演習をする。			
6	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング				14	【授業単元】 セキュリティ			
	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、webサイト制作(HTML)の演習をする。					【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、セキュリティに関するヘルプデスク演習をする。			
7	【授業単元】 データベース				15	【授業単元】 成果報告発表			
	【到達目標】 IPプラットフォーム活動で用いるITパスポート問題集データを題材にして、データベース構築の演習を行う。					【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。			
8	【授業単元】 ネットワーク				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で6段階(A～F)で評価する。小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formによる試験)で行う。小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テストは該当授業単元の成果物制作・発表をもって代替して評価することがある。				
	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、ネットワークに関するヘルプデスク演習をする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自分が好きなこと(好きなテーマ、取り組みたいテーマ)を発見し、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

## 授 業 概 要

科目名	情報マネジメント・ストラテジー		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山圭太郎			
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科		学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】											
3種の活動[① 学科全員で公的資格ITパスポートの取得を目指すチーム活動(以下、IPプラットフォーム活動) ② 校内の業務分析やシステム化の支援(以下、校内ICT支援活動) ③ 校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントのエントリー(以下、コンテスト活動)]を題材にして、情報システムの管理運用・生産性の改善を検討できるようにする。											
【学習内容】											
各種の情報システムの管理運用を行うとともに、情報の信頼性、パフォーマンス、組織のインテリジェンスを向上により、価値を高め、生産性を改善する活動を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
使用教科書は特にないものとする。「ITパスポート試験シラバスVer.6」を参考文書とする。「試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など」Ver.4.3」を参考文書とする。業務を理解に資するwebサイトを教材とする。						特になし					
コマ	授業計画				コマ	授業計画					
1	【授業単元】 システム戦略	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動のためのグループウェアやオフィスツール、SNSなどを利用した効果的なコミュニケーションについて演習する。業務モデルにおけるモデリングを演習する。	9	【授業単元】 中間報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について中間報告発表を行う。	10	【授業単元】 開発技術	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、要件定義、設計、プログラミング、テスト、ソフトウェア保守などのシステム開発の演習をする。	11	【授業単元】 企業と法務	【到達目標】 校内ICT支援活動や実在の企業を題材にして、企業活動や経営管理、知的財産権、セキュリティ関連法規などの法律の演習をする。
	【授業単元】 経営戦略			【授業単元】 プロジェクトマネジメント			【授業単元】 サービスマネジメント				
2	【授業単元】 企業と法務	【到達目標】 実在の企業をテーマにして、SWOT分析、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)などの経営情報分析手法を用いた演習をする。	12	【授業単元】 プロジェクトマネジメント	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、プロジェクトマネジメントの演習をする。	13	【授業単元】 情報メディア	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報メディア活用の演習をする。	14	【授業単元】 システム企画	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、システム化計画、現状分析などに基づく業務要件定義、見積書、提案依頼書(RFP)、提案書の流れなど調達の基本的な流れを演習する。
	【授業単元】 システム企画			【授業単元】 セキュリティ							
3	【授業単元】 情報デザイン	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報デザインの演習をする。	15	【授業単元】 サービスマネジメント	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、ITサービスマネジメントの演習をする。	15	【授業単元】 情報メディア	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報メディア活用の演習をする。	16	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、webサイト制作(HTML)の演習をする。
	【授業単元】 情報デザイン			【授業単元】 セキュリティ							
4	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、webサイト制作(HTML)の演習をする。	16	【授業単元】 セキュリティ	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、セキュリティに関するヘルプデスク演習をする。	16	【授業単元】 セキュリティ	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、セキュリティに関するヘルプデスク演習をする。	17	【授業単元】 データベース	【到達目標】 IPプラットフォーム活動で用いるITパスポート問題集データを題材にして、データベース構築の演習を行う。
	【授業単元】 データベース			【授業単元】 成果報告発表							
5	【授業単元】 データベース	【到達目標】 IPプラットフォーム活動で用いるITパスポート問題集データを題材にして、データベース構築の演習を行う。	17	【授業単元】 成果報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。	17	【授業単元】 成果報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。	18	【授業単元】 ネットワーク	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、ネットワークに関するヘルプデスク演習をする。
	【授業単元】 ネットワーク			【授業単元】 成果報告発表							
6	【授業単元】 ネットワーク	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、ネットワークに関するヘルプデスク演習をする。	18	【授業単元】 成果報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。	18	【授業単元】 成果報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。	19	【履修に当たっての心構え・留意点】	生活の中で接する企業活動や、生活で用いられている情報システムに興味をもち、深く調べていく技能を身につけます。探求の過程で、情報マネジメントや戦略性について、思考していきます。
	【授業単元】 ネットワーク			【授業単元】 成果報告発表							
【履修に当たっての心構え・留意点】											
生活の中で接する企業活動や、生活で用いられている情報システムに興味をもち、深く調べていく技能を身につけます。探求の過程で、情報マネジメントや戦略性について、思考していきます。											

## 授業概要

科目名	情報テクノロジー演習2	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
3種の活動(① 学科全員で公的資格ITパスポートの取得を目指すチーム活動(以下、IPプラットフォーム活動) ② 校内の業務分析やシステム化の支援(以下、校内ICT支援活動) ③ 校外で開催されるコンテストイベントのエントリー(以下、コンテスト活動))を題材にして、どのような情報システムが必要か戦略・仕組みを検討するとともに、情報システムの実践的な構築と運用を行う。情報テクノロジー演習1の内容を応用して高度化するとともに、とくにハードウェア・ネットワークの構築を学ぶ。									
【学習内容】									
職業人として備えておくべき、情報技術に関する共通的な基礎知識を習得し、担当する業務に対して情報技術を活用する次の実践を行う。① 利用する情報機器およびシステムを把握し、活用する。② 担当業務を理解し、その業務における問題の把握および必要な解決を図る。③ 安全に情報の収集や活用を行う。④ 業務の分析やシステム化の支援を行う。⑤ 担当業務において、新しい技術(AI、ビッグデータ、IoTなど)および新しい手法の情報の取集し、活用を推進する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書は特になしとする。「ITパスポート試験シラバスVer.6」を参考文書とする。「試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など」(Ver.4.3)を参考文書とする。業務を理解に資するwebサイトを教材とする。					校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Dataチャレンジ、アーバンデータチャレンジ、チャレンジ!!オープンガバナンス)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 システム戦略	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動のためのグループウェアやオフィスツール、SNSなどを利用した効果的なコミュニケーションについて演習する。業務モデルにおけるモデリングを演習する。	【授業単元】 経営戦略	【到達目標】 実在の企業をテーマにして、SWOT分析、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)などの経営情報分析手法を用いた演習をする。	9	【授業単元】 中間報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について中間報告発表を行う。	【授業単元】 開発技術	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、要件定義、設計、プログラミング、テスト、ソフトウェア保守などのシステム開発の演習をする。
	【授業単元】 企業と法務					【到達目標】 校内ICT支援活動や実在の企業を題材にして、企業活動や経営管理、知的財産権、セキュリティ関連法規などの法律の演習をする。			
2	【授業単元】 システム企画	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、システム化計画、現状分析などに基づく業務要件定義、見積書、提案依頼書(RFP)、提案書の流れなど調達の基本的な流れを演習する。	【授業単元】 情報デザイン	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報デザインの演習をする。	11	【授業単元】 サービスマネジメント	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、ITサービスマネジメントの演習をする。	【授業単元】 情報メディア	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報メディア活用の演習をする。
	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング					【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、webサイト制作(HTML)の演習をする。			
3	【授業単元】 データベース	【到達目標】 IPプラットフォーム活動で用いるITパスポート問題集データを題材にして、データベース構築の演習を行う。	【授業単元】 ネットワーク	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、ネットワークに関するヘルプデスク演習をする。	13	【授業単元】 成果報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。	【成績評価の方法と基準】	講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で6段階(A~F)で評価する。小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Form)による試験)で行う。小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テストは該当授業単元の成果物制作・発表をもって代替して評価することがある。
	【授業単元】 データベース					【到達目標】 IPプラットフォーム活動で用いるITパスポート問題集データを題材にして、データベース構築の演習を行う。			
4	【授業単元】 ネットワーク	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、ネットワークに関するヘルプデスク演習をする。	【授業単元】 ネットワーク	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、ネットワークに関するヘルプデスク演習をする。	15	【授業単元】 成果報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。	【成績評価の方法と基準】	講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で6段階(A~F)で評価する。小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Form)による試験)で行う。小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テストは該当授業単元の成果物制作・発表をもって代替して評価することがある。
	【授業単元】 データベース					【到達目標】 IPプラットフォーム活動で用いるITパスポート問題集データを題材にして、データベース構築の演習を行う。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題を発見し、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

# 授業概要

科目名	児童・家庭福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	富永 あかり		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
子どもの最善の利益を実現させるため、どのような法律や制度、アプローチ方法があるかを理解できる。 また、現代の制度や法律等がどのような歴史の変遷を経ているかを理解した上で、現代の「子ども」「家庭」「子どもを取り巻く環境」等における様々な問題(課題)に対してどのような支援策があるかを具体的に説明できる。									
<b>【学習内容】</b>									
様々な児童福祉施設や生活保護のケースワーカー(公務員)として子どものいる家庭を支援し、現在はスクールソーシャルワーカーとして活動する教員が、教科書、レジュメ、事例検討などを活用しながら単元に沿って展開をしていく。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
3最新 社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 ／一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 【参考図書】入門 スクールソーシャルワーク論/ミネルヴァ書房					予習:授業前にコマシラバスと授業プリントを確認しておくこと。 復習:翌授業で復習クイズをするため、内容を整理しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 子ども家庭福祉とは何か				9	【授業単元】 第5章第4節、5節 要保護児童等と在宅支援/児童虐待にかかわる実践 その1 児童虐待にかかわる支援/児童虐待にかかわる実践 その2			
	【到達目標】 子どもを「子ども」としてでなく「1人の人間」として捉えることができる。 「子どもの最善の利益」を保障するために、親や保護者の重要性を理解する。					【到達目標】 要支援児童等とそのかかえている課題や在宅支援における他機関連携と支援のポイントについて理解できる。 子どもの利益を図ることと保護者を支援することの関係や関係機関との連携で生じる葛藤への対処について考察できる。			
2	【授業単元】 第2章 子ども家庭福祉の歴史 第3章 子どもを取り巻く現代社会				10	【授業単元】 第5章第6節、7節 社会的養護/社会的養護にかかわる実践 ひとり親家庭への支援/ひとり親家庭への支援にかかわる実践			
	【到達目標】 現代社会の子どもとその家庭の現状を知り、様々な施策の改善点を考察する。 子ども家庭福祉行政の機構、国・都道府県・市町村の役割と業務を理解する。					【到達目標】 社会的養護の仕組みを理解する。 社会的養護における権利擁護を理解する。 ひとり親が抱えがちな問題(課題)を理解できる。			
3	【授業単元】 第4章 第1～4節 子ども家庭福祉の法体系				11	【授業単元】 第5章第8節、10節、11節 DVと女性支援、女性福祉にかかわる実践 少年非行、若者支援/若者の自立支援にかかわる実践			
	【到達目標】 児童福祉六法と関連法律の概要について理解する。					【到達目標】 DV問題、性被害や性的に搾取されている女性に対する支援を知ることができる。 若者の抱える困難や課題とその背景を考え、若者が社会とかかわる重要性を説明できる。			
4	【授業単元】 第4章 第5節 子ども家庭福祉の実施機関				12	【授業単元】 第5章第12節、9節 障害のある子どもへの支援/障害児にかかわる実践 スクールソーシャルワーク/教育との協働にかかわる実践			
	【到達目標】 児童相談所等の子ども家庭福祉の実施機関の目的や業務を理解する。					【到達目標】 障害児支援は、子どもを取り巻く家族や支援者への支援も重要であることを理解する。 スクールソーシャルワーカーについての価値・倫理、仕事内容、支援過程について理解できる。			
5	【授業単元】 第5章第2節 母子保健/母子保健や医療との協働による実践				13	【授業単元】 第5章第13節 ソーシャルアクション 当事者参画とアドボカシーに関わる実践			
	【到達目標】 母子保健法の目的や対象、様々な事業の考え方などを理解できる。 社会福祉(児童)の立場で母子保健との情報共有の意義を説明できる。					【到達目標】 子どもが権利主体として、意見や思いが聴かれることの重要性について述べることができる。			
6	【授業単元】 第5章第3節 保育/保育における実践				14	【授業単元】 中間テストの解説 第9回からの振り返り			
	【到達目標】 保育に関する制度の流れや最近の動向を理解する。 保育におけるソーシャルワーク実践の意義と方法を説明できる。					【到達目標】 中間テストにおける重要項目を理解する。 第8回から第13回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。			
7	【授業単元】 今までの振り返り				15	【授業単元】 定期テスト 振り返り			
	【到達目標】 第1回から第6回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。					【到達目標】 前期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。			
8	【授業単元】 中間テスト ビデオ視聴				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 子どもの人権について考察し、ソーシャルワーカーとしての自分の考えを具体的に説明することができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
子ども家庭福祉から昔や現在の社会問題(課題)が見えてくることを踏まえた上で授業に取り組んでください。									



授 業 概 要

科目名	貧困に対する支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	吉成 孝夫		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1・2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉事務所などでの行政事務経験はないが、2008年12月の年越し派遣村の活動や、墨田区でボランティアとして、ホームレス支援活動に参加した経験がある。貧困や格差問題の解決は今や日本社会の最重要課題である。問題を抱える人々の視点からこれらの問題に接近する態度を共に学びたい									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援(中央法規)					・必ず学習プリントを読み返し、授業の振り返りを行う ・小テストは何度もやり直し定着を図る				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション				9	【授業単元】 生活保護の財源と予算(教科書第4章第8節)			
	【到達目標】 ①本講座で具体的に何を学ぶのかを理解し、学習意欲が持てるようになる ②日本及び諸外国の公的扶助制度を概観する中で、公的扶助の概念を理解する ③公的扶助制度と社会保険制度の違いを理解する					【到達目標】 ①生活保護費の基本的性格を理解する ②生活保護費に関する費用を理解する ③国家予算と保護費の関係を理解する			
2	【授業単元】 貧困・低所得者問題と社会的排除(教科書第2章)				10	【授業単元】 最低生活保障水準と生活保護基準(教科書第5章)			
	【到達目標】 ①貧困・低所得とは何か(概念定義)を生活および社会階層の観点から理解する ②貧困の定義および社会的排除に関して欧米の研究成果と貧困の実態調査を理解する ③現代における貧困・低所得者問題の諸相について理解する					【到達目標】 ①最低生活保障水準の考え方を理解する ②生活保護基準について理解する ③最低生活および生活保護最低基準の実際を学ぶ			
3	【授業単元】 公的扶助制度の歴史①-欧米-(教科書第3章・第1節)				11	【授業単元】 生活保護の動向(教科書第6章)			
	【到達目標】 ①イギリスを中心に旧救貧法制定の背景と内容及び社会構造上の意義について理解する ②1834年の新救貧法の歴史的背景とその内容及びその影響について学ぶ ③資本主義経済体制の進展の中で、貧困問題の解決に救貧法では解決できず、やがて様々な要因の下で、公的扶助が誕生、さらに現代的展開を理解する					【到達目標】 ①被保護者の数及び被保護世帯数の最近の動向を理解する ②保護の開始及び廃止について最近の動向を理解する ③特に医療扶助・介護扶助の最近の動向について理解する			
4	【授業単元】 公的扶助制度の歴史②-日本-(教科書第3章・第2節)				12	【授業単元】 生活保護の運営・実施体制(教科書第8章)			
	【到達目標】 ①日本近代史における救貧法の歴史的変遷とその内容を理解する ②第2次世界大戦後の生活保護法の制定とその内容及び意義について理解する ③近年の貧困問題の深刻化に伴う生活保護法の改正について理解する					【到達目標】 ①中央政府・地方自治体の役割を理解する ②福祉事務所の役割を理解する ③社会福祉主事の役割を理解する			
5	【授業単元】 公的扶助の役割と意義(教科書第1章第2節)				13	【授業単元】 低所得者対策の概要①(教科書第7章第1節～第3節pp163～186)			
	【到達目標】 ①社会保障体系の中の公的扶助の位置と役割を理解する ②セーフティネット機能としての公的扶助の意義を理解する ③ナショナルミニマムとしての公的扶助の意義と役割を理解する					【到達目標】 ①生活困窮者自立支援法の概要とその事業について理解する ②生活福祉資金制度の成立過程とその概要について理解する ③社会手当制度の沿革および内容について理解する			
6	【授業単元】 生活保護制度の仕組み①(第4章第1節～第2節)				14	【授業単元】 貧困・低所得者に対する相談援助活動(教科書第9章)			
	【到達目標】 ①生活保護法の目的を理解する ②生活保護法の基本原理を理解する ③保護の原則を理解する					【到達目標】 ①生活保護制度における相談援助活動の特徴とプロセスを理解する ②多職種との連携・協同について理解する ③相談援助活動の具体例を通して実際の援助例を学び理解を深める。			
7	【授業単元】 保護の種類・内容・方法及び保護施設(第4章第3節～第4節)				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ①生活扶助をはじめとした8種類の扶助について理解する ②生活保護における方法の意味を理解する ③保護施設の種類と種類及び主な役割を理解する					【到達目標】 これまで学んだ知識を試験問題に取り組み中で定着させる 振り返りおよび解答解説を行う。			
8	【授業単元】 被保護者の権利と義務(教科書第4章第5節～第7節)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ①被保護者の権利と義務を理解する ②いわゆる不正受給問題についての実態を調べ、どうあるべきかを学ぶ ③不服申し立て及び行政事件訴訟について理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
強は何よりも言葉の定義から始まるので、絶えずわからない言葉が出てきたら、国語辞典などを利用して意味内容を理解するよう努めてください。また、漫然と勉強するのではなく、日々の出来事と結び付け、疑問を持つように訓練することが大切です。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	菊池留美		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院での研究、病院・地域包括支援センターでのソーシャルワーク実践の経験がある教員が、社会福祉士の役割・業務内容や社会福祉士に求められる価値観・倫理等、社会福祉士として基盤となる価値・知識に関する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版、2021年。随時、レジュメや資料を配布する。					授業中に行った確認テストやレジュメを用いて復習を行うこと。授業中に紹介した書籍については、個々の興味によって参考にとすること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション、社会福祉士・精神保健福祉士とソーシャルワーク				9	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの基盤となる考え方:理念(当事者主権、自立支援、エンパワメント)			
	<b>【到達目標】</b> 当科目の概要と目的を理解する。 社会福祉士・精神保健福祉士とソーシャルワークの関係について理解する。					<b>【到達目標】</b> 事例を基に、ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解する			
2	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの概念 ソーシャルワークの構成要素				10	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの基盤となる考え方:(ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン)			
	<b>【到達目標】</b> 事例を基に、ソーシャルワーク、ソーシャルワーカーの概念に触れる					<b>【到達目標】</b> 事例を基に、ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解する。			
3	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの概念 ソーシャルワークの構成要素				11	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの形成過程:ソーシャルワークの源流と基礎確立期			
	<b>【到達目標】</b> 事例を基に、ソーシャルワークの構成要素を理解する					<b>【到達目標】</b> 欧米のソーシャルワークの誕生を理解する			
4	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ:社会福祉士				12	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの形成過程:ソーシャルワークの発展期			
	<b>【到達目標】</b> 社会福祉士の根拠法である「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解する					<b>【到達目標】</b> 欧米のソーシャルワークの発展とその背景を理解する			
5	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ:精神保健福祉士				13	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの形成過程:ソーシャルワークの展開期と統合化			
	<b>【到達目標】</b> 精神保健福祉士の根拠法である「精神保健福祉士法」について理解する					<b>【到達目標】</b> 現在のソーシャルワークの基盤となるジェネラリスト・ソーシャルワークを理解する			
6	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの基盤となる考え方:原理(社会正義、人権)				14	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの形成過程:日本におけるソーシャルワークの形成過程			
	<b>【到達目標】</b> 事例を基に、ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解する					<b>【到達目標】</b> 日本におけるソーシャルワークの形成過程を理解する			
7	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワークの基盤となる考え方:原理(集団的責任、多様性の尊重)				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験、解答解説			
	<b>【到達目標】</b> 事例を基に、ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解する					<b>【到達目標】</b> 学んだことを振り返ることにより、疑問点やわからない点を確認し、今後の学びにつなげる。			
8	<b>【授業単元】</b> 1～7回目のまとめ、中テスト、解答解説				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	<b>【到達目標】</b> 前半のまとめを行い、中テストを行う。疑問点やわからない点を確認し、学びを深める。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
社会福祉士の基盤を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるように配慮します。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	菊池留美		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院での研究、病院・地域包括支援センターでのソーシャルワーク実践の経験がある教員が、社会福祉士の役割・業務内容や社会福祉士に求められる価値観・倫理等、社会福祉士として基盤となる価値・知識に関する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版、2021年。 随時、レジュメや資料を配布する。					授業中に行った確認テストやレジュメを用いて復習を行うこと。授業中に紹介した書籍については、個々の興味によって参考にすること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ソーシャルワークの倫理:専門職倫理の概念				9	【授業単元】 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			
	【到達目標】 なぜ専門職倫理が必要かを考える					【到達目標】 ソーシャルワークのグローバル定義を理解し、実践に則して考える			
2	【授業単元】 ソーシャルワークの倫理:倫理綱領				10	【授業単元】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容			
	【到達目標】 ソーシャルワーカーの倫理綱領を理解する					【到達目標】 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を理解する			
3	【授業単元】 ソーシャルワークの倫理:倫理的ジレンマ				11	【授業単元】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容			
	【到達目標】 倫理的ジレンマの内容と対応方法を考える					【到達目標】 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容を理解する			
4	【授業単元】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲				12	【授業単元】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容			
	【到達目標】 社会福祉士の職域と役割を理解する					【到達目標】 多職種連携およびチームアプローチの意義と内容を理解する			
5	【授業単元】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲				13	【授業単元】 実践現場で働くソーシャルワーカー			
	【到達目標】 多様や組織・機関・団体における専門職を理解する					【到達目標】 実践現場のソーシャルワーカーの方の話を聴き、ソーシャルワーカーの業務内容や大切にしていることを学び、考える			
6	【授業単元】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲				14	【授業単元】 まとめ			
	【到達目標】 諸外国のソーシャルワーカーの実際を学ぶことにより、普遍的なソーシャルワーカーの役割について考える					【到達目標】 1年間の総復習を行う。			
7	【授業単元】 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク				15	【授業単元】 定期試験、解答解説			
	【到達目標】 ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象を理解する					【到達目標】 学んだことを振り返ることにより、疑問点やわからない点を確認し、今後の学びにつなげる。			
8	【授業単元】 1～7回目のまとめ、中テスト、解答解説				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前半のまとめを行い、中テストを行う。疑問点やわからない点を確認し、学びを深める。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
社会福祉士の基盤を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるように配慮します。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	前田 明乃		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1, 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する 2, ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する 3, ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する 4, コミュニティワークの概念とその展開について理解する 5, ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する									

<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
高齢者福祉施設、地域包括支援センターのセンター長として相談援助、ケアマネジメント、地域形成などの業務に18年間携わる。現在も、成年後見を中心とした高齢者支援、保育事業に携わり、スーパービジョンや組織運営の経験をもつ教員が、思考を深める個人ワーク、多様性の理解を深めるグループワークを行いながら社会福祉士に求められる役割と相談援助の根拠との相互作用をふまえた実践力を習得する授業を行う。									

<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>	<b>【授業時間外における学習】</b>
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)/中央法規出版 タブレット(MicrosoftTeams)、授業時に配布する資料	他科目で学習した基礎知識を本科目にもつなげて授業に取り組みるよう復習をする。自身の日常生活圏域や社会の変化、社会問題等を意識的に情報収集する。

コマ	授業計画	コマ	授業計画	
1	<b>【授業単元】</b> 授業オリエンテーション 第1章 ソーシャルワーカーが学ぶ理論  <b>【到達目標】</b> ・社会福祉士に必要な知識の総体における本科目の位置づけを理解する ・講義の進め方を理解し、学びへの主体的な取り組みを意識する ・本科目を学ぶ意義、個々の学習目標を明確化・言語化できる ・人と環境の交互作用に関わるソーシャルワークの考え方を理解する	9	<b>【授業単元】</b> 第3章 ソーシャルワークの過程(アセスメント①)  <b>【到達目標】</b> ・アセスメントの意義、目的、機能、留意点を理解する ・"暮らし"を捉えるアセスメント視点を理解する(個人、地域、社会、生活困窮者自立支援法) ・マッピング技法を理解する(ジェノグラム、エコマップ)	
2	<b>【授業単元】</b> 第1章 システム理論  <b>【到達目標】</b> ・システム理論の基本的な考え方を理解する ・ソーシャルワークにおけるシステム理論の有用性を理解する ・システム理論の実践と4つのサブシステムの相互作用を理解する	10	<b>【授業単元】</b> 第3章 ソーシャルワークの過程(アセスメント②)  <b>【到達目標】</b> ・アセスメントの構成要素と具体的な方法を理解する ・生活課題(ニーズ)の捉え方とパターンリズム、ストレングス視点を理解する ・事例をもとに、アセスメント～マッピング技法の活用に取り組むことができる	
3	<b>【授業単元】</b> 第1章 生態学理論  <b>【到達目標】</b> ・生態学の基本的な考え方を理解する ・エコシステムの視座の特質4つを説明できる ・ライフモデルの考え方を理解する	11	<b>【授業単元】</b> 第4章 ソーシャルワークの過程(プランニング①)  <b>【到達目標】</b> ・プランニングの意義を理解する ・プランニングにおける目標設定の考え方と留意点を理解する ・目標達成に向けた支援内容の考え方と留意点を理解する	
4	<b>【授業単元】</b> 第1章 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル(BPSモデル)  <b>【到達目標】</b> ・BPSモデルの多面的視点、基本的な考え方を理解する ・ソーシャルワーク実践とBPSモデルの関係を理解する	12	<b>【授業単元】</b> 第4章 ソーシャルワークの過程(アセスメント～プランニング)  <b>【到達目標】</b> ・プランニングに用いる記録フォーマットと記載すべき内容を理解する ・事例をもとに、プランニングの過程に取り組むことができる	
5	<b>【授業単元】</b> 第1章 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク  <b>【到達目標】</b> ・「人と環境の交互作用」から生じる生活課題を理解する ・生活課題をミクロ、メゾ、マクロそれぞれのレベルから捉える視点を意識化する	13	<b>【授業単元】</b> 第5章 ソーシャルワークの過程(支援の実施とモニタリング)  <b>【到達目標】</b> ・支援の実施方法と留意点を理解する ・モニタリングの目的、内容、方法、留意点を理解する ・効果測定の方法、意義、方法(シングル・システム・デザイン)を理解する	
6	<b>【授業単元】</b> 第1章 ソーシャルワークの目標と展開過程  <b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワークの定義(国際ソーシャルワーカー連盟 グローバル定義)から、ソーシャルワークの目的、価値を説明できる ・ソーシャルワークの展開過程(流れ)の概要を理解する	14	<b>【授業単元】</b> 第6章 ソーシャルワークの過程(支援の終結と結果評価、アフターケア)  <b>【到達目標】</b> ・結果評価の目的、方法、留意点を理解する ・支援終結後の生活課題の再燃、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する ・結果評価、アフターケアをふまえて支援終結とは何か?を説明できる	
7	<b>【授業単元】</b> 第2章 ソーシャルワークの過程(ケースの発見とエンゲージメント)  <b>【到達目標】</b> ・アウトリーチ、リファールと相談への動機づけの関係を理解する ・エンゲージメント(インテーク)の意味と役割を理解する ・クライアントとの関係構築と技法、留意点を理解する	15	<b>【授業単元】</b> 定期試験 解説および前期学習内容の振り返り(まとめ)  <b>【到達目標】</b> ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる	
8	<b>【授業単元】</b> 中テスト 解説および学習内容の振り返り  <b>【到達目標】</b> ・前期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)	<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。		

<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>			
専門職種、職場における実践をイメージし社会福祉士としての思考を意識して取り組みましょう。自他の考えを受容する意識をもち、考える力・発言する力・質問する力を高められるよう積極的かつ協働の学習環境を意識してください。			

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	前田 明乃		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

1. 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する
2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する
3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する
4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する
5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

高齢者福祉施設、地域包括支援センターのセンター長として相談援助、ケアマネジメント、地域形成などの業務に18年間携わる。現在も、成年後見を中心とした高齢者支援、保育事業に携わり、スーパービジョンや組織運営の経験をもつ教員が、思考を深める個人ワーク、多様性の理解を深めるグループワークを行いながら社会福祉士に求められる役割と相談援助の根拠との相互作用をふまえた実践力を習得する授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)／中央法規出版  
タブレット(Microsoft Teams)、授業時に配布する資料

【授業時間外における学習】

他科目で学習した基礎知識を本科目にもつなげて授業に取り組みめるよう復習をする。自身の日常生活圏域や社会の変化、社会問題等を意識的に情報収集する。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方	9	【授業単元】 第10章 ケアマネジメント(ケースマネジメント)①
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの形成過程(実践モデル、アプローチ)の歴史的流れを理解する ・生活モデル、治療モデル、ストレングスモデルの特徴を理解する ・ジェネラリストソーシャルワークと実践モデルの相互関係を理解する ・生活モデル、治療モデル、ストレングスモデルの特徴をふまえた実践的な活用を考えることができる		【到達目標】 ・ケアマネジメントの歴史、適用の基本原則、意義を理解する ・ケアマネジメントのモデルとプロセスを理解する ・介護保険法、障害者自立支援法における位置づけと流れを理解する
2	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①	10	【授業単元】 第11章 グループを活用した支援
	【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチの特徴、適用を理解する 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ		【到達目標】 ・グループワークの意義、目的、介入対象を理解する ・グループワークの展開過程と介入の留意点を理解する ・グループワークとセルフヘルプグループの区別、運営への専門職支援と留意点を理解する ・当事者が活動することの意義、効果を理解する
3	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②	11	【授業単元】 第12章 コミュニティワーク
	【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチの特徴、適用を理解する 課題中心アプローチ 行動変容アプローチ 認知アプローチ		【到達目標】 ・住民主体の地域福祉活動の意義を理解する ・地域課題に対するコミュニティワークの目的、展開過程と方法を理解する
4	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③	12	【授業単元】 第13章 ソーシャルアドミニストレーション
	【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチの特徴、適用を理解する 危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ ナラティブアプローチ		【到達目標】 ・ソーシャルアドミニストレーションの概念と定義を理解する ・組織介入、組織改善の実践モデルと組織運営について理解する
5	【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④	13	【授業単元】 第14章 ソーシャルアクション
	【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチの特徴、適用を理解する 解決志向アプローチ アドラー心理学、ロゴセラピー 交流分析(エゴグラム、心の4つの姿勢)、神経言語プログラミング(NLP)、リフレーミング)		【到達目標】 ・ソーシャルアクションの意義を理解する ・事例を通して、ソーシャルアクションの展開過程を理解する
6	【授業単元】 第8章 ソーシャルワークの面接	14	【授業単元】 第15章 スーパービジョンとコンサルテーション
	【到達目標】 ・日常会話との違いを考え、面接の意義、目的、留意点を説明できる ・面接の形態や手段、場所の多様性と留意点を理解する ・具体的な面接技法を理解する		【到達目標】 ・スーパービジョンの定義、目的を理解する ・コンサルテーションの定義、目的を理解する ・スーパービジョン、コンサルテーションそれぞれの機能、関係、実施について理解する
7	【授業単元】 第9章 ソーシャルワークの記録	15	【授業単元】 定期試験 解説および後期学習内容の振り返り(まとめ)
	【到達目標】 ・記録の意義と目的、運用を理解する ・専門職の記録に求められる倫理的責任と書くべき内容、文章表現の留意点を理解する ・さまざまな記録のフォーマットを用いて、実践的に取り組むことができる		【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り	【成績評価の方法と基準】	
	【到達目標】 ・後期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)	講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。	

【履修に当たっての心構え・留意点】

専門職種、職場における実践をイメージし社会福祉士としての思考を意識して取り組みましょう。自他の考えを受容する意識をもち、考える力・発言する力・質問する力を高められるよう積極的かつ協働の学習環境を意識してください。

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	原田悟史				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間		
【授業を通じての到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーカーの価値と役割を知り、基礎となる倫理観を説明することができる</li> <li>・ソーシャルワーカーの価値観のもと、クライアントが抱えている課題を客観的・分析的に捉える視点や、それに応じた面談技術の基本を習得することができる</li> <li>・演習授業を通じて、将来同じ分野の仕事を目指す他者と連携、協働することができる</li> </ul>											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
医療・障害・高齢分野にてソーシャルワークを実践してきた教員が、ソーシャルワーカーの基礎となるマインドや対人援助技術をペアワーク、グループワークを中心に実践的な授業を実施する											
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】						
毎回Teams上でレジュメを配布 PC・タブレット等のTeamsを閲覧できるデバイス					他科目で学んだ内容を演習授業にて多角的に体现できるよう、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を復習すること						
授業計画					コマ	授業計画					
1	【授業単元】 オリエンテーション	【到達目標】 ・「演習」のねらいと進め方について理解する ・ペア・グループワークでのルールを知る ・他者の意見や考えに耳を傾けることができる	9	【授業単元】 面談の基本技法① 個人の価値観とSWの専門職としての価値観	【到達目標】 ・個人の価値観とSWの専門職の価値観の相違を説明することができる	10	【授業単元】 面談の基本技法② 「言語」コミュニケーションと「非言語」コミュニケーションの活用	【到達目標】 ・言語・非言語コミュニケーションについて理解し、非言語の箇所の背景とその後の反応について考えることができる	11	【授業単元】 面談の基本技法③ 信頼関係構築に向けた適切な質問技法	【到達目標】 ・クライアントに対する質問の種類を知り、技術を実践することができる
	【授業単元】 ソーシャルワーカーの使命と役割			【授業単元】 面談の基本技法④ 「言い換え」と「要約」			【到達目標】 ・相手の発した言葉を別の言葉に言い換えることができる ・相手の発した言葉を要約し、不明確な場合には明確化することができる				
2	【授業単元】 ソーシャルワーカーの「倫理」	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーの行為には「価値」や「倫理」が存在していることを知り、倫理綱領と行動規範を理解したうえで、事例問題に取り組むことができる	12	【授業単元】 自己理解と自己覚知①	【到達目標】 ・現時点での自分の価値観を説明することができる	13	【授業単元】 自己理解と自己覚知②	【到達目標】 ・自らがもつ感情を客観的に捉え、相談援助の専門職の視点で考えることができる	14	【授業単元】 感情の理解	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自身が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる
	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用			【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる			【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り	
3	【授業単元】 自己理解と自己覚知①	【到達目標】 ・現時点での自分の価値観を説明することができる	13	【授業単元】 定期試験①	【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)	14	【授業単元】 定期試験②	【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)	15	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法	【到達目標】 ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレスを考慮することができる
	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り			【到達目標】 ・模擬インテーク面談を振り返り、面談時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる				
4	【授業単元】 感情の理解	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自身が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる	14	【授業単元】 定期試験②	【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)	15	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法	【到達目標】 ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレスを考慮することができる	15	【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用	【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる
	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り			【到達目標】 ・模擬インテーク面談を振り返り、面談時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる				
5	【授業単元】 自己理解と自己覚知①	【到達目標】 ・現時点での自分の価値観を説明することができる	12	【授業単元】 自己理解と自己覚知①	【到達目標】 ・相手の発した言葉を別の言葉に言い換えることができる ・相手の発した言葉を要約し、不明確な場合には明確化することができる	13	【授業単元】 自己理解と自己覚知②	【到達目標】 ・自らがもつ感情を客観的に捉え、相談援助の専門職の視点で考えることができる	14	【授業単元】 感情の理解	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自身が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる
	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用			【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる			【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り	
6	【授業単元】 自己理解と自己覚知②	【到達目標】 ・自らがもつ感情を客観的に捉え、相談援助の専門職の視点で考えることができる	13	【授業単元】 定期試験①	【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)	14	【授業単元】 定期試験②	【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)	15	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法	【到達目標】 ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレスを考慮することができる
	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り			【到達目標】 ・模擬インテーク面談を振り返り、面談時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる				
7	【授業単元】 感情の理解	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自身が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる	14	【授業単元】 感情の理解	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自身が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる	15	【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用	【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる	15	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法	【到達目標】 ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレスを考慮することができる
	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り			【到達目標】 ・模擬インテーク面談を振り返り、面談時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる				
8	【授業単元】 自己理解と自己覚知①	【到達目標】 ・現時点での自分の価値観を説明することができる	12	【授業単元】 自己理解と自己覚知①	【到達目標】 ・相手の発した言葉を別の言葉に言い換えることができる ・相手の発した言葉を要約し、不明確な場合には明確化することができる	13	【授業単元】 自己理解と自己覚知②	【到達目標】 ・自らがもつ感情を客観的に捉え、相談援助の専門職の視点で考えることができる	14	【授業単元】 感情の理解	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自身が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる
	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用			【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる			【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り	
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】						
他科目で学んだ内容も含み、科目横断的に授業を展開していきますので、復習をしましょう。					講義全体を100点満点とし、定期テスト(模擬面談)を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験はグループごとに模擬面談をおこない、採点する ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。						

## 授 業 概 要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<p>現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「新・社会福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> イギリスでの社会福祉の源流 エリザベス教貧法～トインビーホール P23～25  <b>【到達目標】</b> ・エリザベス教貧法の内容が説明できるようになる。 ・新教貧法の3つの原則を上げることができる。 ・トインビーホール設置の目的と事業内容を説明できる。				9	<b>【授業単元】</b> 現代社会の変化と福祉 人口動態や世帯の在り方から福祉政策をの変化を見る P100～107  <b>【到達目標】</b> ・高齢化率の変遷を説明できる ・合計特殊出生率の変遷を説明できる。 ・世帯の在り方の変化を説明できる ・働き方の変遷を説明できる。			
2	<b>【授業単元】</b> 福祉国家の萌芽 貧困調査～ワイマール共和国の誕生 P26～27 P50～54  <b>【到達目標】</b> ・貧困調査の意義とその報告内容を簡単に説明できる。 ・ナショナルミニマムについて簡潔に説明できる。 ・第一次大戦の結末と社会主義国家誕生を関連付けて説明できる。 ・ワイマール共和国誕生の意義を解説できる				10	<b>【授業単元】</b> 社会保障予算の抑制委へ 「新しい日本型福祉社会の実現」(1979)～福祉八法改正(1990) P122～128  <b>【到達目標】</b> ・1979年の「新しい日本型福祉社会」とは、何かを説明できる。 ・1985年の基礎年金制度への改正とその目的を説明できる。 ・1989年「今後の社会福祉のあり方について」のポイント3つを指摘できる。 ・福祉八法改正の要点を3つあげられる。			
3	<b>【授業単元】</b> 福祉国家の発展 ルーズベルトの社会保障法～ジョンソンの「貧困戦争」 P28～31 P50～54  <b>【到達目標】</b> ・ルーズベルト大統領のニューディール政策と社会保障法を解説できる。 ・ベヴァリッジ報告の目指した生活保障を解説できる。 ・ジョンソン大統領の「貧困との戦い」の内容を説明できる。 ・福祉国家の意味を端的に説明できる。				11	<b>【授業単元】</b> 社会福祉基礎構造改革 1994「21世紀福祉ビジョン」～2000「社会福祉法」 P129～155  <b>【到達目標】</b> ・「21世紀福祉ビジョン」が目指した重要ポイント一つをあげる。 ・1998「社会福祉基礎構造改革」の「措置から契約へ」「多様な主体の参入」の意味と意義を説明できる。 ・2000年「社会福祉法」の最重要ポイントを一点あげられる			
4	<b>【授業単元】</b> 福祉国家の変容 福祉多元論～ワークフェアの拡がり P31～32 P50～54  <b>【到達目標】</b> ・レーガノミクスやサッチャイズムを解説できる。 ・新自由主義が福祉政策に及ぼした影響を解説できる。 ・「第三の道」や「ポジティブウェルフェア」を解説できる。				12	<b>【授業単元】</b> 新自由主義的改革 小泉政権下の構造改革～民主党政権の政策 2005～介護保険制度の改正 2008:後期高齢者医療制度 2004:年金改革  <b>【到達目標】</b> ・小泉政権が行った自立支援にはどのようなものがあったかを説明できる ・セーフティネットの底が抜けた日本の課題を解説できる ・民主党政権下の「税と社会保障の一体改革」の意味を解説できる			
5	<b>【授業単元】</b> 日本の福祉の源流 江戸時代～明治の社会事業政策 中央慈善協会設立(1908) P34～38  <b>【到達目標】</b> ・江戸時代の都市と農村での互助制度を簡単に述べるができる。 ・明治時代の篤志家による社会事業活動に関して、7人の活動内容を説明できる。 ・感化法の歴史の意義を議論できる ・明治期の慈善事業は篤志家によって支えられていたことを理解する。				13	<b>【授業単元】</b> 安倍政権下の社会福祉政策 P200～201  <b>【到達目標】</b> ・貧困対策としての生活困窮者自立支援法の中身を言える ・労働力不足対策としての女性活躍推進法の意味を解説できる ・アベノミクス 新・三本の矢の意味するところを説明できる			
6	<b>【授業単元】</b> 戦争と厚生事業 済世顧問制度(1917)～健康保険(1942) P38～41  <b>【到達目標】</b> ・方面委員制度・済世顧問制度を説明できる。 ・健康保険制度を成立させた時代背景を具体的に述べるができる。 ・戦時厚生事業の目的を把握し、説明できる。 ・厚生年金の成立の事情を述べられる。				14	<b>【授業単元】</b> 社会的包摂と地域共生社会の構築へ P194～209  <b>【到達目標】</b> ・地域包括ケアシステムを構築しようと考えたきっかけが何かを説明できる ・介護保険法と地域包括システムの関係を解説できる ・「一億総活躍プラン」と地域共生社会の関係を解説できる。「我が事・丸ごと」地域共生社会をイメージできる			
7	<b>【授業単元】</b> 福祉国家への始動 マッカーサー三原則(1945)～国民皆保険の達成(1961) P40～42  <b>【到達目標】</b> ・福祉三法を制定した必要性を説明できる。 ・新生活保護法の改正点を挙げるができる。 ・医療保険と年金保険制度に関して、簡単な説明ができる				15	<b>【授業単元】</b> ・社会福祉の歴史の総復習 ・前期試験  <b>【到達目標】</b> ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	<b>【授業単元】</b> 福祉の充実期 1960～1975 所得倍増計画(1960)～福祉元年(1973) P42～44  <b>【到達目標】</b> ・福祉六法をすべてあげることができる。 ・社会保障制度審議会『962年勧告』の重要部分を解説できる。 ・田中角栄首相の「福祉元年」の内容を説明できる ・福祉見直しと言われ始めた背景を解説できる				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b> 配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていただくこと。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門) I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	原田 悟史		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーカーの価値と役割を知り、基礎となる倫理観を説明することができる</li> <li>・ソーシャルワーカーの価値観のもと、クライアントが抱えている課題を客観的・分析的に捉える視点や、それに応じた面談技術の基本を習得することができる</li> <li>・演習授業を通じて、将来同じ分野の仕事を目指す他者と連携、協働することができる</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療・障害・高齢分野にてソーシャルワークを実践してきた教員が、ソーシャルワーカーの基礎となるマインドや対人援助技術をペアワーク、グループワークを中心に実践的な授業を実施する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回Teams上でレジュメを配布 PC・タブレット等のTeamsを閲覧できるデバイス					他科目で学んだ内容を演習授業にて多角的に体現できるよう、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を復習すること				
授業計画					授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 面談の基本技法① 個人の価値観とSWの専門職としての価値観			
	【到達目標】 ・「演習」のねらいと進め方について理解する ・ペア・グループワークでのルールを知る ・他者の意見や考えに耳を傾けることができる					【到達目標】 ・個人の価値観とSWの専門職の価値観の相違を説明することができる			
2	【授業単元】 ソーシャルワーカーの使命と役割				10	【授業単元】 面談の基本技法② 「言語」コミュニケーションと「非言語」コミュニケーションの活用			
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーとしての「価値観」を説明することができる ・ソーシャルワーカーが活躍する場所と役割を知ることができる					【到達目標】 ・言語・非言語コミュニケーションについて理解し、非言語の箇所の背景とその後の反応について考えることができる			
3	【授業単元】 ソーシャルワーカーの「倫理」				11	【授業単元】 面談の基本技法③ 信頼関係構築に向けた適切な質問技法			
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーの行為には「価値」や「倫理」が存在していることを知り、倫理綱領と行動規範を理解したうえで、事例問題に取り組むことができる					【到達目標】 ・クライアントに対する質問の種類を知り、技術を実践することができる			
4	【授業単元】 自己理解と自己覚知①				12	【授業単元】 面談の基本技法④ 「言い換え」と「要約」			
	【到達目標】 ・現時点での自分の価値観を説明することができる					【到達目標】 ・相手の発した言葉を別の言葉に言い換えることができる ・相手の発した言葉を要約し、不明確な場合には明確化することができる			
5	【授業単元】 自己理解と自己覚知②				13	【授業単元】 定期試験①			
	【到達目標】 ・自らがもつ感情を客観的に捉え、相談援助の専門職の視点で考えることができる					【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)			
6	【授業単元】 感情の理解				14	【授業単元】 定期試験②			
	【到達目標】 ・普段の生活の中で、自分自身を支配している負の感情を知り、自身が抱きやすい感情とその背景を言語化することができる					【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)			
7	【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用				15	【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り			
	【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる					【到達目標】 模擬インテーク面談を振り返り、面談時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる			
8	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テスト(模擬面談)を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験はグループごとに模擬面談をおこない、採点する ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレスを考慮することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
他科目で学んだ内容も含み、科目横断的に授業を展開していきますので、復習をしましょう。									



授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	幾田 こずえ		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	講義	総単 位数	2 単位	総時 間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
「地域福祉の基本的な考え方、展開、動向」「地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念」「地域福祉を推進するための福祉行政の実施体制と果たす役割」「地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開」「包括的支援体制の考え方と多職種及び多機関協働の意義と実際」「地域生活課題の変化と現状を踏まえた包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割」などについて理解できるようにする。									
【学習内容】									
地域活動支援センターで社会福祉士・精神保健福祉士として相談援助業務にあたる傍ら、地域連携による障害者支援を担うソーシャルワーカーについて大学院にて研究を修めた講師が、実践現場や国家試験を視野に入れ、地域福祉についての基礎的な知識と理論に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座6『地域福祉と包括的支援体制』（中央法規出版）					・授業前または授業後に教科書の該当箇所を読み、要点を整理する。 ・小テストや中テストなどで間違えた問題については振り返りを行う。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題（1）			9	【授業単元】 第3章 地域福祉ガバナンスと多機関協働（2） 第3節				
	【到達目標】 地域社会をめぐる基本的な概念と理論を理解する。 日本のコミュニティ政策の動向を把握する。				【到達目標】 多職種連携の目的について学ぶ。 多職種連携を促進する要因やコンピテンシーについて把握する。				
2	【授業単元】 第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題（2）			10	【授業単元】 第3章 地域福祉ガバナンスと多機関協働（3） 第4節				
	【到達目標】 世帯の小規模化、過疎化、見えない貧困、外国人住民の増加等、地域社会の変化によって発生する地域生活課題と対応策を理解する。				【到達目標】 福祉分野と以外の分野、フォーマルとインフォーマルの協働の目的と意義、協働することの効果を理解する。 地方創生の政策と実際を知る。				
3	【授業単元】 ※事例紹介 第1章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題（3）			11	【授業単元】 第4章 地域福祉の基本的な考え方（1） 第1節				
	【到達目標】 多様化・複雑化した地域生活課題が地域住民において表出していることを理解する。 社会的孤立、他者排斥、社会的排除の概念について理解する。 ソーシャルワーカーの捉え方や行動を理解する。				【到達目標】 地域福祉の概念の構成要素について学ぶ。 地域福祉の代表的な理論の内容について理解する。 新たな課題や動向について理論的な考察を図る。				
4	【授業単元】 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制（1） 第1節			12	【授業単元】 第4章 地域福祉の基本的な考え方（2） 第2節				
	【到達目標】 地域包括ケアシステムについて理解する。 地域包括ケアシステムの展開過程を学ぶ。 高齢者以外の領域での包括的な相談支援体制を理解する。				【到達目標】 欧米の地域福祉の源流の内容、日本の地域福祉の源流の内容、戦後から今日に至る歴史の変遷の内容について理解する。				
5	【授業単元】 ※相談支援プロセスの実際 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制（2） 第2節			13	【授業単元】 第4章 地域福祉の基本的な考え方（3） 第3節～第4節				
	【到達目標】 生活困窮者自立支援制度の目的、基本理念、概要を学ぶ。 自立相談支援事業の役割と支援過程、必要な倫理と基本姿勢を理解する。 包括的な相談支援体制について理解する。				【到達目標】 人口減少・超高齢社会における地域生活課題について把握する。 地域生活課題に対応する地域福祉に新たな動向について理解する。 地域福祉の推進主体について理解する。				
6	【授業単元】 第2章 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制（3） 第3節～第5節			14	【授業単元】 ※ボランティア活動の意義 第4章 地域福祉の基本的な考え方（4） 第5節				
	【到達目標】 包括的支援体制について理解し、具体的な展開方法を学ぶ。 地域共生社会について学び、実現に向けての方法を理解する。 包括的支援体制や重層的支援体制の実現に向けてのソーシャルワーカーの役割を理解する。				【到達目標】 地域生活課題の推進主体について理解する。 地域住民の主体の形成、福祉教育の重要性について学ぶ。				
7	【授業単元】 第3章 地域福祉ガバナンスと多機関協働（1） 第1節～第2節			15	【授業単元】 前期の振り返り、定期試験				
	【到達目標】 地域福祉ガバナンスの概念、横断的な連携や協働が求められる背景、専門職の役割を理解する。 多機関が協働する意義、仕組みを学ぶ。				【到達目標】 地域福祉ガバナンス、多機関協働、地域福祉についてを中心に前期の内容を振り返り、理解を深める。				
8	【授業単元】 中間振り返り、中テスト			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 地域社会、地域生活課題、地域共生社会について振り返り、理解を深める。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日常生活において地域住民の一員であるという意識を持ち、特に自身の居住地域の特徴、存在する機関や組織などに興味関心を持つようにする。									

## 授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング2	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野 大輔		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1年次の到達目標や科目間のつながりを理解するとともに、主体的な姿勢で学習するために必要な習慣やLMSの活用方法、他者と協働して学ぶための基盤となるスキル、職業観や勤労観などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につけることができる。									
【学習内容】									
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、主体的な姿勢で学習、他者と協働して学ぶための基盤となるスキル、職業観や就労観などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につける授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業ごとに配布する教材資料					計画・実行・振り返りを通して、得た気づきを行動で実践してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 他者との協同について①				9	【授業単元】 他者との協同について(プロジェクト学習)			
	【到達目標】 クラスメイトとともに相互支援の関係を築くことができる。					【到達目標】 クラスメイトとともに学習する環境を整えることができる。			
2	【授業単元】 他者との協同について②				10	【授業単元】 特別授業”ソーシャルワーカー”			
	【到達目標】 クラスメイトとともに相互支援の関係を築くことができる。					【到達目標】 ソーシャルワークを実践している先生からの特別授業を通して、目指す将来像について考える事ができる。			
3	【授業単元】 主体的に学ぶ				11	【授業単元】 スポーツフェスティバル			
	【到達目標】 主体的に学ぶ習慣や環境を整えることができる。					【到達目標】 スポーツフェスティバルにおいて、クラスメイトや他学科とともに協同することができる。			
4	【授業単元】 LMS・仮想空間の利用について				12	【授業単元】 振り返り(スポーツフェスティバル)			
	【到達目標】 LMSや仮想空間の活用についてクラスメイトとともに考え・実践することができる。					【到達目標】 スポーツフェスティバルの振り返りを通して、協同・主体的を振り返り・言語化することができる。			
5	【授業単元】 主体的に学ぶ(スマホ教室)				13	【授業単元】 主体的に学ぶ(学習)			
	【到達目標】 主体的に学ぶ習慣や環境を整えることができる。					【到達目標】 クラスメイトとともに主体的に学習する環境を整えることができる。			
6	【授業単元】 仮想空間・実習システムの利用について				14	【授業単元】 特別授業”IT×ソーシャルワーク”			
	【到達目標】 仮想空間や実習システムの活用についてクラスメイトとともに考え・実践することができる。					【到達目標】 IT×ソーシャルワークを実践している現場の取り組みを通して、目指す将来像について考える事ができる。			
7	【授業単元】 他者と協同(スポーツフェスティバル)				15	【授業単元】 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 主体的かつ協同的にスポーツフェスティバルの準備を進めることができる。					【到達目標】 学びや気づきを言語化することを通して、実践することができる。			
8	【授業単元】 計画と振り返り 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、レポート等による定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験(レポート)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 主体的かつ協同的にスポーツフェスティバルの準備・スマホ教室の振り返りを進めることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主体的に参加をしましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング2	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	高野 大輔		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1年次の到達目標や科目間のつながりを理解するとともに、主体的な姿勢で学習するために必要な習慣やLMSの活用方法、他者と協働して学ぶための基盤となるスキル、職業観や勤労観などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につけることができる。									
【学習内容】									
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、主体的な姿勢で学習、他者と協働して学ぶための基盤となるスキル、職業観や就労観などを含めた自らのキャリア構築の視点などを身につける授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業ごとに配布する教材資料					振り返りを通して、得た気づきを行動で実践してください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 主体的に学ぶ	【到達目標】 クラスメイトとともに学びやすい関係や環境を築き、習慣化することができる。			10	【授業単元】 主体的に学ぶ(実習) 中テスト	【到達目標】 学園祭の振り返りを通して、協同・主体的を振り返り・言語化することができる。		
	【授業単元】 LMSの活用について(プロジェクト学習)					【授業単元】 主体的に学ぶ(実習)			
2	【到達目標】 クラスメイトとともにプロジェクト学習を効果的に進めることができる。				11	【到達目標】 実習に向けてクラスメイトとともに主体的に準備をすることができる。			
	【授業単元】 主体的に学ぶ					【授業単元】 特別授業"IT×ソーシャルワーク"			
3	【到達目標】 クラスメイトとともにプロジェクト学習を主体的・効果的に進めることができる。				12	【到達目標】 IT×ソーシャルワークを実践している現場の取り組みを通して、目指す将来像について考える事ができる。			
	【授業単元】 他者と協同について					【授業単元】 特別授業"IT×ソーシャルワーク"			
4	【到達目標】 クラスメイトとともに学習する環境を整えることができる。				13	【到達目標】 IT×ソーシャルワークを実践している現場の取り組みを通して、目指す将来像について考える事ができる。			
	【授業単元】 他者との協働について(学園祭)					【授業単元】 主体的に学ぶ			
5	【到達目標】 協同的に学園祭の準備を進めることができる。				14	【到達目標】 授業や行事、現場体験の行動を振り返る事を通して、自らの今後の行動につなげることができる。			
	【授業単元】 他者との協働について(学園祭)					【授業単元】 定期試験 振り返り			
6	【到達目標】 協同的に学園祭の準備を進めることができる。				15	【到達目標】 学びや気づきを言語化することを通して、実践することができる。			
	【授業単元】 他者との協働について(学園祭)					【授業単元】			
7	【到達目標】 協同的に学園祭の準備を進めることができる。					【到達目標】			
	【授業単元】 主体的に取り組む(学園祭)					【成績評価の方法と基準】			
8・9	【到達目標】 学園祭において、クラスメイトや他学科とともに主体的に協同することができる。					講義全体を100点満点とし、レポート等による定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。	・試験は筆記試験(レポート)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(10回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。		
	【履修に当たっての心構え・留意点】					【到達目標】			
主体的に参加をしましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム2		必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野 大輔	
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科		学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数 120 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域や社会の様々な資源の見学や体験、講演やディスカッション等を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。									
【学習内容】									
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、地域社会や現場の実際を現場体験中心に体験を通して、これからの社会の姿や解決が必要な地域課題を理解する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業ごとに配布する教材資料					現場体験や各プロジェクトで行う施設や概要について調べ、そして体験した内容についてまとめる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1. 2. 3・4 4/21	【授業単元】 ・オリエンテーション～チャレンジプログラム2・SDGsアプリ・スマホ教室～ ・現場体験前授業				33. 34. 35. 36 6/23	【授業単元】 ・現場体験			
	【到達目標】 ・チャレンジプログラム2の目的・目標を述べるができる。 ・現場体験先の概要を説明することができる。					【到達目標】 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。			
5. 6. 7・8 4/28	【授業単元】 ・計画(スマホ教室) ・現場体験前授業				37. 38. 39. 40 6/30	【授業単元】 ・スマホ教室 ・SDGsアプリ			
	【到達目標】 ・スマホ教室の目的・目標として、地域のデジタルデバйд解消について述べるができる。 ・現場体験の目的・目標を述べるができる。					【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバйдの実際について述べるができる。			
9. 10. 11. 12 5/12	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・準備(スマホ教室)・現場体験前授業				41. 42. 43. 44 7/14	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・スマホ教室			
	【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・現場体験に向けて、身構え・気構え・心構えの具体的な行動を自らの言葉で述べるができる。					【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバйдの実際について述べるができる。			
13. 14. 15. 16 5/19	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・スマホ教室				45. 46. 47. 48 7/21	【授業単元】 ・現場体験			
	【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバйдの実際について述べるができる。					【到達目標】 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。			
17. 18. 19. 20 5/26	【授業単元】 ・現場体験前授業 ・プロジェクト学習				49. 50. 51. 52 7/28	【授業単元】 ・スマホ教室 ・現場体験後授業			
	【到達目標】 ・現場体験に向けて、身構え・気構え・心構えの具体的な行動を自らの言葉で述べるができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。					【到達目標】 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバйдの実際について述べるができる。 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。			
21. 22. 23. 24 6/2	【授業単元】 ・現場体験				53. 54. 55. 56 8/4	【授業単元】 ・振り返り(SDGsアプリ) ・振り返り(スマホ教室)・現場体験後授業			
	【到達目標】 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。					【到達目標】 ・SDGsアプリ・スマホ教室の振り返りを通して、気付きや次の計画・行動を具体的に述べるができる。 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。			
25. 26. 27. 28 6/9	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・プロジェクト学習				57. 58. 59. 60 8/11	【授業単元】 ・現場体験(発表会) ・特別授業			
	【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。					【到達目標】 ・現場体験の発表会を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。 ・特別授業を通して、ITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。			
29. 30. 31. 32 6/16	【授業単元】 ・現場体験				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。				講義全体を100点満点とし、発表等による定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
現場体験を通して、多くの気づきを得るために主体的に参加をしてください。									

## 授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム2		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	高野 大輔		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科		学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	120 時間
【授業を通じての到達目標】										
地域や社会の様々な資源の見学や体験、講演やディスカッション等を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。										
【学習内容】										
キャリアセンターとして施設や業界との関係構築や学部において教育を担ってきた職員が、地域社会や現場の実際を現場体験中心に体験を通して、これからの社会の姿や解決が必要な地域課題を理解する授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
授業ごとに配布する教材資料					現場体験や各プロジェクトで行う施設や概要について調べ、そして体験した内容についてまとめる。					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1. 2. 3-4 9/8	【授業単元】 ・オリエンテーション～チャレンジプログラム2・SDGsアプリ・スマホ教室～ ・現場体験前授業				34. 35. 36. 37 11/1 11/3	【授業単元】 11/1・スマホ教室 11/3・プロジェクト学習				
	【到達目標】 ・チャレンジプログラム2の目的・目標を述べるができる。 ・現場体験先の概要を説明することができる。					【到達目標】 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。				
5. 6. 7-8 9/15	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・現場体験前授業 ・プロジェクト学習				38. 39. 40. 41 11/1 0	【授業単元】 現場体験				
	【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・現場体験の目的・目標を述べるができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。					【到達目標】 地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。				
9. 10. 11 9/22	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・スマホ教室				42. 43. 44 11/1 7	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・プロジェクト学習				
	【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。					【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。				
12. 13. 14. 15 9/29	【授業単元】 ・現場体験				45. 46. 47. 48 11/2 4	【授業単元】 ・現場体験				
	【到達目標】 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。					【到達目標】 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について述べるができる。				
16. 17. 10/4	【授業単元】 ・スマホ教室				49. 50. 51. 52 12/1	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・特別授業 ・現場体験後授業				
	【到達目標】 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。					【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・特別授業を通して、実習に向けて具体的な行動を述べることができる。 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。				
18. 19. 20. 21 10/6	【授業単元】 ・プロジェクト学習 ・スマホ教室				53. 54. 55. 56 12/8	【授業単元】 ・振り返り(SDGsアプリ・スマホ教室) ・現場体験後授業				
	【到達目標】 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。					【到達目標】 ・SDGsアプリ・スマホ教室の振り返りを通して、気付きや次の計画・行動を具体的に述べるができる。 ・現場体験を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。				
22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29 10/1 3 10/2 7	【授業単元】 ・SDGsアプリ ・スマホ教室				57. 58. 59. 60 12/1 5	【授業単元】 ・現場体験(発表会) ・特別授業				
	【到達目標】 ・SDGsアプリの今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。					【到達目標】 ・現場体験の発表会を通して、地域社会の実際やITを利活用して目指す未来、解決すべき社会課題について言語化することができる。 ・特別授業を通して、実習について述べるができる。				
30. 31. 32. 33 10/2 0	【授業単元】 ・プロジェクト学習 ・スマホ教室				【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ・プロジェクト学習の今後の活動について説明することができる。 ・スマホ教室を通して、対象者の理解やデジタルデバインドの実際について述べるができる。				講義全体を100点満点とし、発表等による定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は発表で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
現場体験を通して、多くの気づきを得るために主体的に参加をしてください。										

## 授業概要

科目名	情報テクノロジー演習2	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
3種の活動① 学科全員で公的資格ITパスポートの取得を目指すチーム活動(以下、IPプラットフォーム活動) ② 校内の業務分析やシステム化の支援(以下、校内ICT支援活動) ③ 校外で開催されるコンテストイベントのエントリー(以下、コンテスト活動)を題材にして、どのような情報システムが必要か戦略・仕組みを検討するとともに、情報システムの実践的な構築と運用を行う。情報テクノロジー演習1の内容を応用して高度化するとともに、とくにハードウェア・ネットワークの構築を学ぶ。									
【学習内容】									
職業人として備えておくべき、情報技術に関する共通的な基礎知識を習得し、担当する業務に対して情報技術を活用する次の実践を行う。① 利用する情報機器およびシステムを把握し、活用する。② 担当業務を理解し、その業務における問題の把握および必要な解決を図る。③ 安全に情報の収集や活用を行う。④ 業務の分析やシステム化の支援を行う。⑤ 担当業務において、新しい技術(AI、ビッグデータ、IoTなど)および新しい手法の情報の取集し、活用を推進する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書は特になしとする。「ITパスポート試験シラバスVer.6」を参考文書とする。「試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など」Ver.4.3」を参考文書とする。業務を理解に資するwebサイトを教材とする。					校外で開催されるコンテストイベントまたはハッカソンイベントにエントリーし、作品開発を行う。(出場するコンテストの候補として、Linked Open Dataチャレンジ、アーバンデータチャレンジ、チャレンジ!!オープンガバナンス)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 システム戦略	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動のためのグループウェアやオフィスツール、SNSなどを利用した効果的なコミュニケーションについて演習する。業務モデルにおけるモデリングを演習する。	9	【授業単元】 中間報告発表	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について中間報告発表を行う。				
	【授業単元】 経営戦略			【授業単元】 開発技術					
2	【到達目標】 実在の企業をテーマにして、SWOT分析、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)などの経営情報分析手法を用いた演習をする。	10	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、要件定義、設計、プログラミング、テスト、ソフトウェア保守などのシステム開発の演習をする。						
	【授業単元】 企業と法務		【授業単元】 プロジェクトマネジメント						
3	【到達目標】 校内ICT支援活動や実在の企業を題材にして、企業活動や経営管理、知的財産権、セキュリティ関連法規などの法律の演習をする。	11	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、プロジェクトマネジメントの演習をする。						
	【授業単元】 システム企画		【授業単元】 サービスマネジメント						
4	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、システム化計画、現状分析などに基づく業務要件定義、見積書、提案依頼書(RFP)、提案書の流れなど調達の基本的な流れを演習する。	12	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、ITサービスマネジメントの演習をする。						
	【授業単元】 情報デザイン		【授業単元】 情報メディア						
5	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報デザインの演習をする。	13	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、情報メディア活用の演習をする。						
	【授業単元】 アルゴリズムとプログラミング		【授業単元】 セキュリティ						
6	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動を題材にして、webサイト制作(HTML)の演習をする。	14	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、セキュリティに関するヘルプデスク演習をする。						
	【授業単元】 データベース		【授業単元】 成果報告発表						
7	【到達目標】 IPプラットフォーム活動で用いるITパスポート問題集データを題材にして、データベース構築の演習を行う。	15	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。						
	【授業単元】 ネットワーク		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で6段階(A～F)で評価する。 小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formによる試験)で行う。 小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テストは該当授業単元の成果物制作・発表をもって代替して評価することができる。						
8	【到達目標】 校内ICT支援活動で実践的な業務が行えるよう、ネットワークに関するヘルプデスク演習をする。	15	【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。						
	【履修に当たっての心構え・留意点】		【到達目標】 IPプラットフォーム活動・校内ICT支援活動・コンテスト活動、それぞれの活動について成果報告発表を行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会福祉分野の課題を発見し、探求することを期待します。探求の過程で、必要な情報テクノロジーを会得していきます。									

## 授 業 概 要

科目名	システムサービスマネジメント	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
顧客のニーズに合致した適切なITサービスを提供するための、マネジメントの全体像や具体的な業務を学ぶ。									
【学習内容】									
基本的なアプリケーションから実用的なアプリケーションまで、システムサービス管理を包括的に理解できるようになる。システムサービス管理に関わる業務に従事するために必要な知識とスキルを身につける。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書は特になく、実践的に用いるシステムサービスマネジメントツールのマニュアル・webサイトを参考にする。					他の授業で取り組んでいる校外のコンテストイベントの取り組みにおいて制作する作品・システムに対して、システムサービスマネジメントの考え方を取り入れる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 システムサービスマネジメントの概要				9	【授業単元】 インシデントマネジメント			
	【到達目標】 システムサービスマネジメントとは何か、その役割や目的について学ぶ。					【到達目標】 インシデントマネジメントの概要、インシデントの分類、インシデントの通知、復旧、報告などについて学ぶ。			
2	【授業単元】 システム開発ライフサイクル				10	【授業単元】 問題管理			
	【到達目標】 システム開発のライフサイクルについて学び、各段階でのマネジメントの方法について学ぶ。					【到達目標】 問題管理の概要、問題の特定、分類、調査、解決、回避、監視について学ぶ。			
3	【授業単元】 システム監視				11	【授業単元】 変更管理			
	【到達目標】 システム監視の概要、ツール、監視データの分析方法について学ぶ。					【到達目標】 変更管理の概要、変更の申請、承認、実施、評価、報告、監視について学ぶ。			
4	【授業単元】 ログ解析				12	【授業単元】 リリース管理			
	【到達目標】 ログ解析の方法、ログ分析ツールの使い方、ログ解析のためのデータ分析技術について学ぶ。					【到達目標】 リリース管理の概要、リリースの計画、実施、評価、報告について学ぶ。			
5	【授業単元】 システムセキュリティ				13	【授業単元】 コンフィギュレーションマネジメント			
	【到達目標】 システムセキュリティについて学び、脆弱性の発見や脅威の分析、セキュリティポリシーの策定方法について学ぶ。					【到達目標】 コンフィギュレーションマネジメントの概要、構成アイテムの管理、バージョン管理、変更の追跡、レビューについて学ぶ。			
6	【授業単元】 パフォーマンスチューニング				14	【授業単元】 ベンダーマネジメント			
	【到達目標】 システムパフォーマンスのチューニング、ボトルネックの解消、キャッシュの最適化、パフォーマンステストの方法について学ぶ。					【到達目標】 アウトソーシングにおけるベンダーマネジメントの概要、ベンダー選定、契約交渉、ベンダー管理について学ぶ。			
7	【授業単元】 システムバックアップと復旧				15	【授業単元】 システムサービスマネジメントの実践			
	【到達目標】 システムバックアップと復旧の方法、バックアップストレージの管理、災害復旧計画の作成について学ぶ。					【到達目標】 システムサービスマネジメントの実践事例や成功事例、失敗事例、課題解決方法について学ぶ。			
8	【授業単元】 サービスレベルマネジメント				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 サービスレベルマネジメントの概要、サービスレベル契約の作成方法、サービスレベルの監視について学ぶ。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で6段階(A~F)で評価する。小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formによる試験)で行う。小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テストは該当授業単元の成果物制作・発表をもって代替して評価することがある。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
システムサービスマネジメントを運営する組織や担当者をロールプレイングして、取り組む。									

## 授 業 概 要

科目名	AIの基礎		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中山 圭太郎		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科		学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】										
AIに関連する基礎概念や用語を理解するとともに、GUIツールを活用し実際にAIを構築することでAIの作り方を理解する。										
【学習内容】										
AIの基礎を理解し、医療福祉分野のAI利活用において社会に貢献することができるスキルと知識を身につける。AIの利用による社会的影響や倫理的問題についても学び、授業の取り組みを行いながら、AIを利用した技術革新が持つ可能性を最大限に引き出す。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
使用教科書は特になしとする。実践的に用いるAIに関するGUIツールのマニュアル・webサイトを参考にする。					AIに関連する理解を深め、校外のAIに関するコンテストイベントにエントリーし、プロンプト作成を行う。活動を通じて、プロンプトの評価をしよう。					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 AIの基礎概念				9	【授業単元】 自然言語処理				
	【到達目標】 AIの定義、AIの分類、AIの応用分野、AIの現状などについて学ぶ。					【到達目標】 単語の埋め込み、文の分類、機械翻訳などについて学びます。				
2	【授業単元】 機械学習の基礎				10	【授業単元】 画像認識				
	【到達目標】 機械学習の概要、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の違いや用途について学ぶ。					【到達目標】 CNN、転移学習、オブジェクト検出などについて学びます。				
3	【授業単元】 データの前処理				11	【授業単元】 音声認識				
	【到達目標】 データの収集、クリーニング、変換、データの欠損値処理などについて学ぶ。					【到達目標】 音声認識システムの構成、ディープラーニングモデルの構築、アプリケーションなどについて学びます。				
4	【授業単元】 モデルの選択				12	【授業単元】 強化学習				
	【到達目標】 モデルの種類、選択基準、適切なモデルの選び方について学ぶ。					【到達目標】 報酬関数、状態、行動、価値関数などについて学ぶ。				
5	【授業単元】 モデルの評価				13	【授業単元】 モデルの最適化				
	【到達目標】 モデルの性能評価指標、混合行列、ROC曲線などについて学ぶ。					【到達目標】 遺伝的アルゴリズム、粒子群最適化、進化戦略などについて学ぶ。				
6	【授業単元】 AIの教師あり学習				14	【授業単元】 倫理とAI				
	【到達目標】 回帰分析、決定木、ランダムフォレスト、サポートベクターマシンなどについて学ぶ。					【到達目標】 AIの利用による社会的影響、倫理的問題、バイアス、フェアネス、倫理的な意思決定などについて学ぶ。				
7	【授業単元】 AIの教師なし学習				15	【授業単元】 AIの応用に向けて				
	【到達目標】 クラスタリング、主成分分析、異常検出などについて学びます。					【到達目標】 AIの応用に向けて、AIを利用した実践例について学ぶ。				
8	【授業単元】 深層学習				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点で6段階(A~F)で評価する。小テストおよび中テストはCBT方式(Computer Based Testing、Teams Formlによる試験)で行う。小テストは5点満点とし、合計13回行う。中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。小テストと中テストの合計点(80点満点)の1/2(小数点以下切り上げ)を講義全体に占める小テストの点数とする。小テストは該当授業単元の成果物制作・発表をもって代替して評価することがある。					
	【到達目標】 ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワーク、再帰型ニューラルネットワークなどについて学びます。									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
AIが対象とする分野やテーマに対するデータの状況・法整備・関連組織の構造にも興味をもって、取り組む。										



## 授 業 概 要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
「新・社会福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずですよ。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> イギリスでの社会福祉の源流 エリザベス教養法～トインビーホール P23～25  <b>【到達目標】</b> ・エリザベス教養法の内容が説明できるようになる。 ・新教養法の3つの原則を上げることができる。 ・トインビーホール設置の目的と事業内容を説明できる。				9	<b>【授業単元】</b> 現代社会の変化と福祉 人口動態や世帯の在り方から福祉政策をの変化を見る P100～107  <b>【到達目標】</b> ・高齢化率の変遷を説明できる ・合計特殊出生率の変遷を説明できる。 ・世帯の在り方の変化を説明できる ・働き方の変遷を説明できる。			
2	<b>【授業単元】</b> 福祉国家の萌芽 貧困調査～ワイマール共和国の誕生 P26～27 P50～54  <b>【到達目標】</b> ・貧困調査の意義とその報告内容を簡単に説明できる。 ・ナショナルミニマムについて簡潔に説明できる。 ・第一次大戦の結末と社会主義国家誕生を関連付けて説明できる。 ・ワイマール共和国誕生の意義を解説できる				10	<b>【授業単元】</b> 社会保障予算の抑制委へ 「新しい日本型福祉社会の実現」(1979)～福祉八法改正(1990) P122～128  <b>【到達目標】</b> ・1979年の「新しい日本型福祉社会」とは、何かを説明できる。 ・1985年の基礎年金制度への改正とその目的を説明できる。 ・1989年「今後の社会福祉のあり方について」のポイント3つを指摘できる。 ・福祉八法改正の要点を3つあげられる。			
3	<b>【授業単元】</b> 福祉国家の発展 ルーズベルトの社会保障法～ジョンソンの「貧困戦争」 P28～31 P50～54  <b>【到達目標】</b> ・ルーズベルト大統領のニューディール政策と社会保障法を解説できる。 ・ベヴァリッジ報告の目指した生活保障を解説できる。 ・ジョンソン大統領の「貧困との戦い」の内容を説明できる。 ・福祉国家の意味を端的に説明できる。				11	<b>【授業単元】</b> 社会福祉基礎構造改革 1994「21世紀福祉ビジョン」～2000「社会福祉法」 P129～155  <b>【到達目標】</b> ・「21世紀福祉ビジョン」が目指した重要ポイント一つをあげる。 ・1998「社会福祉基礎構造改革」の「措置から契約へ」「多様な主体の参入」の意味と意義を説明できる。 ・2000年「社会福祉法」の最重要ポイントを一点あげられる			
4	<b>【授業単元】</b> 福祉国家の変容 福祉多元論～ワークフェアの拡がり P31～32 P50～54  <b>【到達目標】</b> ・レーガノミクスやサッチャイズムを解説できる。 ・新自由主義が福祉政策に及ぼした影響を解説できる。 ・「第三の道」や「ポジティブウェルフェア」を解説できる。				12	<b>【授業単元】</b> 新自由主義的改革 小泉政権下の構造改革～民主党政権の政策 2005～介護保険制度の改正 2008:後期高齢者医療制度 2004:年金改革  <b>【到達目標】</b> ・小泉政権が行った自立支援にはどのようなものがあったかを説明できる ・セーフティネットの底が抜けた日本の課題を解説できる ・民主党政権下の「税と社会保障の一体改革」の意味を解説できる			
5	<b>【授業単元】</b> 日本の福祉の源流 江戸時代～明治の社会事業政策 中央慈善協会設立(1908) P34～38  <b>【到達目標】</b> ・江戸時代の都市と農村での互助制度を簡単に述べる事ができる。 ・明治時代の篤志家による社会事業活動に関して、7人の活動内容を説明できる。 ・感化法の歴史の意味を議論できる ・明治期の慈善事業は篤志家によって支えられていたことを理解する。				13	<b>【授業単元】</b> 安倍政権下の社会福祉政策 P200～201  <b>【到達目標】</b> ・貧困対策としての生活困窮者自立支援法の中身を言える ・労働力不足対策としての女性活躍推進法の意味を解説できる ・アベノミクス 新・三本の矢の意味するところを説明できる			
6	<b>【授業単元】</b> 戦争と厚生事業 済世顧問制度(1917)～健康保険(1942) P38～41  <b>【到達目標】</b> ・方面委員制度・済世顧問制度を説明できる。 ・健康保険制度を成立させた時代背景を具体的に述べる事ができる。 ・戦時厚生事業の目的を把握し、説明できる。 ・厚生年金の成立の事情を述べられる。				14	<b>【授業単元】</b> 社会的包摂と地域共生社会の構築へ P194～209  <b>【到達目標】</b> ・地域包括ケアシステムを構築しようと考えたきっかけが何かを説明できる ・介護保険法と地域包括システムの関係性を解説できる ・「一億総活躍プラン」と地域共生社会の関係性を説明できる。「我が事、カネ、地域共生社会」「我が事、丸ごと」地域共生社会をイメージできる			
7	<b>【授業単元】</b> 福祉国家への始動 マッカーサー三原則(1945)～国民皆保険の達成(1961) P40～42  <b>【到達目標】</b> ・福祉三法を制定した必要性を説明できる。 ・新生活保護法の改正点を挙げることができる。 ・医療保険と年金保険制度に関して、簡単な説明ができる				15	<b>【授業単元】</b> ・社会福祉の歴史の総復習 ・前期試験  <b>【到達目標】</b> ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	<b>【授業単元】</b> 福祉の充実期 1960～1975 所得倍増計画(1960)～福祉元年(1973) P42～44  <b>【到達目標】</b> ・福祉六法をすべてあげることができる。 ・社会保障制度審議会「962年勧告」の重要部分を解説できる。 ・田中角栄首相の「福祉元年」の内容を説明できる ・福祉見直しと言われた背景を解説できる				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	前田 明乃		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1, 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する 2, 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する 3, 社会資源の活用の意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する 4, 個別の事例の具体的な解決策および事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
高齢者福祉施設、地域包括支援センターのセンター長として相談援助、ケアマネジメント、地域形成などの業務に18年間携わる。現在も、成年後見を中心とした高齢者支援、保育事業に携わり、スーパービジョンや組織運営の経験をもつ教員が、思考を深める個人ワーク、多様性の理解を深めるグループワークを行いながら社会福祉士に求められる役割と相談援助の根拠との相互作用をふまえた実践力を習得する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)ノ中央法規出版 タブレット(Microsoft Teams)、授業時に配布する資料					他科目で学習した基礎知識を本科目にもつなげて授業に取り組めるよう復習をする。自身の日常生活圏域や社会の変化、社会問題等を意識的に情報収集する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 授業オリエンテーション ソーシャルワークの理論と方法(共通)の再確認				9	<b>【授業単元】</b> 第2章 援助関係の形成方法と留意点			
	<b>【到達目標】</b> ・社会福祉士に必要な知識の総体における本科目の位置づけを理解する ・講義の進め方を理解し、学びへの主体的な取り組みを意識する ・「ソーシャルワークの理論と方法(共通)」での学習をふまえて、本科目を学ぶ意義、個々の学習目標を明確化・言語化できる					<b>【到達目標】</b> ・援助関係形成における、ソーシャルワーカー自身の自己覚知、自己理解と他者理解の必要性を理解し自身と向き合い考えることができる ・バイステックの原則をふまえた援助関係の形成方法を実践的に理解する			
2	<b>【授業単元】</b> 第1章 総合的かつ包括的な支援の考え方				10	<b>【授業単元】</b> 第3章 ネットワークの形成			
	<b>【到達目標】</b> ・ジェネラリストソーシャルワークと実践モデルの相互関係を説明できる ・総合的かつ包括的な支援の考え方を理解する(エンゲージメントとアセスメントスキル) ・事例を通して、多様化、複雑化した生活課題に対応するための関わり視点とネットワーク形成を理解する					<b>【到達目標】</b> ・ネットワークの意義、概念、方法を理解する ・社会福祉政策動向のなかでのネットワークの位置づけを理解する(地域ケア会議、地域包括ケアシステム) ・ネットワークのプロセスと留意点を理解する(ソーシャルサポート・ネットワーク)			
3	<b>【授業単元】</b> 第1章 家族支援の実際				11	<b>【授業単元】</b> 第3章 コーディネーション			
	<b>【到達目標】</b> ・家族を取り巻く社会の状況、複合的課題を理解する ・家族に関する基礎理論を理解し、「家族」をアセスメントする方法を理解する ・家族支援に求められる視点を理解し、ツールを活用して実践的に家族支援を考えることができる					<b>【到達目標】</b> ・コーディネーションの意義と方法を理解する ・コーディネーターを担う人材とその役割を理解する ・コーディネーションの構成要素とコーディネーターの重層性をふまえた具体的手段を理解する			
4	<b>【授業単元】</b> 第1章 地域支援の実際				12	<b>【授業単元】</b> 第4章 社会資源の活用・調整			
	<b>【到達目標】</b> ・地域課題の把握から解決に至るまでのプロセスを理解する ・地域における多様な団体、組織、機関との協働や連携の具体的な方法を理解する ・地域支援を行う専門職として、必要な知識、スキル、価値を理解する					<b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワーク実践における社会資源の位置づけ、具体的な内容と活用を理解する ・ソーシャルワーカーの介入方法と社会資源との関係を理解する ・ジェネラリストソーシャルワークにおける社会資源の開発の捉え方を理解する			
5	<b>【授業単元】</b> 第1章 非常時や災害時支援の実際				13	<b>【授業単元】</b> 第4章 社会資源開発のさまざまな方法			
	<b>【到達目標】</b> ・非常時や災害時の定義、生じる生活課題に対するソーシャルワークの目的を理解する ・ソーシャルワーク専門職の活動と支援の原則を理解する ・事例を通して、災害ソーシャルワークの展開と留意点を考えることができる					<b>【到達目標】</b> ・社会資源開発の方法とプロセスを理解する ・事例を通して、社会資源開発に必要なソーシャルワーカーの知識とスキルを理解する			
6	<b>【授業単元】</b> コミュニティソーシャルワーク実践を考える				14	<b>【授業単元】</b> 第5章 カンファレンス			
	<b>【到達目標】</b> ・地域支援の実際ならびに災害ソーシャルワークの展開事例をふまえて、予防的取り組みや災害発生時に活用できる地域での体制づくり・取り組みを考え提案することができる					<b>【到達目標】</b> ・社会福祉士の業務や実践における会議の種類や開催に必要なスキルを理解する ・会議の運営と留意点を理解する			
7	<b>【授業単元】</b> 第2章 援助関係形成の意義と概念				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験 解説および前期学習内容の振り返り(まとめ)			
	<b>【到達目標】</b> ・人間関係と援助関係の違いを理解し、ソーシャルワークにおける援助関係の重要性と意義を理解する ・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、構成要素、倫理綱領から、実践レベルにおける援助関係の意義と留意点を理解する					<b>【到達目標】</b> ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる			
8	<b>【授業単元】</b> 中テスト 解説および学習内容の振り返り				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	<b>【到達目標】</b> ・前期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
専門職種、職場における実践をイメージし社会福祉士としての思考を意識して取り組みましょう。自他の考えを受容する意識をもち、考える力・発言する力・質問する力を高められるよう積極的かつ協働の学習環境を意識してください。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	前田 明乃		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1, 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する 2, 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する 3, 社会資源の活用の意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する 4, 個別の事例の具体的な解決策および事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
高齢者福祉施設、地域包括支援センターのセンター長として相談援助、ケアマネジメント、地域形成などの業務に18年間携わる。現在も、成年後見を中心とした高齢者支援、保育事業に携わり、スーパービジョンや組織運営の経験をもつ教員が、思考を深める個人ワーク、多様性の理解を深めるグループワークを行いながら社会福祉士に求められる役割と相談援助の根拠との相互作用をふまえた実践力を習得する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)／中央法規出版 タブレット(Microsoft Teams)、授業時に配布する資料					他科目で学習した基礎知識を本科目にもつなげて授業に取り組めるよう復習をする。自身の日常生活圏域や社会の変化、社会問題等を意識的に情報収集する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 第5章 ミクロ・メゾ・マクロの会議①				9	<b>【授業単元】</b> 第7章 ネゴシエーション②			
	<b>【到達目標】</b> ・事例に基づき、ミクロ、メゾ、マクロレベルの会議(カンファレンス)を開催することができる ・会議開催に伴う記録、終了後フィードバックの意味と効果を実践的に理解する					<b>【到達目標】</b> ・交渉に必要な要素を理解する ・事例に基づき、ネゴシエーションに取り組むことができる			
2	<b>【授業単元】</b> 第5章 ミクロ・メゾ・マクロの会議②				10	<b>【授業単元】</b> 第7章 ソーシャル・マーケティング①			
	<b>【到達目標】</b> ・事例に基づき、ミクロ、メゾ、マクロレベルの会議(カンファレンス)を開催することができる ・会議開催に伴う記録、終了後フィードバックの意味と効果を実践的に理解する					<b>【到達目標】</b> ・ビジネスから捉える社会問題の視点を理解し、多面的、異なる価値観からの気付きを意識化する ・ソーシャル・ビジネスの要素と事業領域を理解する			
3	<b>【授業単元】</b> 第7章 ファシリテーション				11	<b>【授業単元】</b> 第7章 ソーシャル・マーケティング②			
	<b>【到達目標】</b> ・ファシリテーションの定義、目的、活用領域を理解する ・ファシリテーションのプロセスと留意点を理解する					<b>【到達目標】</b> ・ソーシャル・ビジネスの要素と事業領域を理解する ・ソーシャル・マーケティングの定義と目的、基準、プロセスを理解する			
4	<b>【授業単元】</b> 第7章 プレゼンテーション				12	<b>【授業単元】</b> 第6章 事例分析			
	<b>【到達目標】</b> ・プレゼンテーションの意義、目的、方法を理解する ・問題への気付きと視点(フレームワーク)を理解する ・プレゼンテーション資料作成と事前準備、事後評価の必要性と留意点を理解する					<b>【到達目標】</b> ・事例分析の目的と意義、方法と留意点を理解する			
5	<b>【授業単元】</b> 第7章 コンフリクト・レゾリューション①				13	<b>【授業単元】</b> 第6章 事例検討			
	<b>【到達目標】</b> ・コンフリクトとは具体的にどのような状況か、これに向き合う目的を理解する ・コンフリクトの構造と対処を理解する					<b>【到達目標】</b> ・事例検討の目的と意義、方法と留意点を理解する			
6	<b>【授業単元】</b> 第7章 コンフリクト・レゾリューション②				14	<b>【授業単元】</b> 第6章 事例研究			
	<b>【到達目標】</b> ・コンフリクトの構造と対処を理解する ・事例を通して、リスクコミュニケーションの重要性を理解する					<b>【到達目標】</b> ・事例研究の目的と意義、方法を理解する ・事例研究の実施プロセスと倫理的配慮を理解する			
7	<b>【授業単元】</b> 第7章 ネゴシエーション①				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験 解説および後期学習内容の振り返り(まとめ)			
	<b>【到達目標】</b> ・交渉の種類、原則を理解する ・展開過程を理解する					<b>【到達目標】</b> ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える			
8	<b>【授業単元】</b> 中テスト 解説および学習内容の振り返り				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	<b>【到達目標】</b> ・後期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
専門職種、職場における実践をイメージし社会福祉士としての思考を意識して取り組みましょう。自他の考えを受容する意識をもち、考える力・発言する力・質問する力を高められるよう積極的かつ協働の学習環境を意識してください。									

# 授 業 概 要

科目名	児童・家庭福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	富永 あかり		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
子どもの最善の利益を実現させるため、どのような法律や制度、アプローチ方法があるかを理解できる。 また、現代の制度や法律等がどのような歴史の変遷を経ているかを理解した上で、現代の「子ども」「家庭」「子どもを取り巻く環境」における様々な問題(課題)に対してどのような支援策があるかを具体的に説明できる。									
<b>【学習内容】</b>									
様々な児童福祉施設や生活保護のケースワーカー(公務員)として子どものいる家庭を支援し、現在はスクールソーシャルワーカーとして活動する教員が、教科書、レジュメ、事例検討などを活用しながら単元に沿って展開をしていく。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
3最新 社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 ／一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 【参考図書】入門 スクールソーシャルワーク論/ミネルヴァ書房					予習:授業前にコマシラバスと授業プリントを確認しておくこと。 復習:翌授業で復習クイズをするため、内容を整理しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 子ども家庭福祉とは何か				9	【授業単元】 第5章第4節、5節 要保護児童等と在宅支援/児童虐待にかかわる実践 その1 児童虐待にかかわる支援/児童虐待にかかわる実践 その2			
	【到達目標】 子どもを「子ども」としてでなく「1人の人間」として捉えることができる。 「子どもの最善の利益」を保障するために、親や保護者の重要性を理解する。 理念・制度・方法を切り離さず、子ども家庭ソーシャルワークの全体像を理解する。					【到達目標】 要支援児童等とのかかえている課題や在宅支援における他機関連携と支援のポイントについて理解できる。 子どもの利益を図ることと保護者を支援することの関係や関係機関との連携で生じる葛藤への対処について考察できる。 児童虐待の定義と現状を理解できる。 児童虐待への対応が実際どのように行われているかを理解する。			
2	【授業単元】 第2章 子ども家庭福祉の歴史 第3章 子どもを取り巻く現代社会				10	【授業単元】 第5章第6節、7節 社会的養護/社会的養護にかかわる実践 ひとり親家庭への支援/ひとり親家庭への支援にかかわる実践			
	【到達目標】 現代社会の子どもとその家庭の現状を知り、様々な施策の改善点を考察する。 子ども家庭福祉行政の機構、国・都道府県・市町村の役割と業務を理解する。					【到達目標】 社会的養護の仕組みを理解する。 社会的養護における権利擁護を理解する。 ひとり親が抱えがちな問題(課題)を理解できる。			
3	【授業単元】 第4章 第1～4節 子ども家庭福祉の法体系				11	【授業単元】 第5章第8節、10節、11節 DVと女性支援、女性福祉にかかわる実践 少年非行、若者支援/若者の自立支援にかかわる実践			
	【到達目標】 児童福祉六法と関連法律の概要について理解する。					【到達目標】 DV問題、性被害や性的に搾取されている女性に対する支援を知ることができる。 若者の抱える困難や課題とその背景を考え、若者が社会とのかかわる重要性を説明できる。			
4	【授業単元】 第4章 第5節 子ども家庭福祉の実施機関				12	【授業単元】 第5章第12節、9節 障害のある子どもへの支援/障害児にかかわる実践 スクールソーシャルワーク/教育との協働にかかわる実践			
	【到達目標】 児童相談所等の子ども家庭福祉の実施機関の目的や業務を理解する。					【到達目標】 障害児支援は、子どもを取り巻く家族や支援者への支援も重要であることを理解する。 スクールソーシャルワーカーについての価値・倫理、仕事内容、支援過程について理解できる。			
5	【授業単元】 第5章第2節 母子保健/母子保健や医療との協働による実践				13	【授業単元】 第5章第13節 ソーシャルアクション 当事者参加とアドボカシーに関わる実践			
	【到達目標】 母子保健法の目的や対象、様々な事業の考え方などを理解できる。 社会福祉(児童)の立場で母子保健との情報共有の意義を説明できる。					【到達目標】 子どもが権利主体として、意見や思いが聴かれることの重要性について述べるることができる。			
6	【授業単元】 第5章第3節 保育/保育における実践				14	【授業単元】 中間テストの解説 第9回からの振り返り			
	【到達目標】 保育に関する制度の流れや最近の動向を理解する。 保育におけるソーシャルワーク実践の意義と方法を説明できる。					【到達目標】 中間テストにおける重要項目を理解する。 第8回から第13回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。			
7	【授業単元】 今までの振り返り				15	【授業単元】 定期テスト 振り返り			
	【到達目標】 第1回から第6回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。					【到達目標】 前期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。			
8	【授業単元】 中間テスト ビデオ視聴				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 子どもの人権について考察し、ソーシャルワーカーとしての自分の考えを具体的に説明することができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
子ども家庭福祉から昔や現在の社会問題(課題)が見えてくることを踏まえた上で授業に取り組んでください。									

## 授 業 概 要

科目名	貧困に対する支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	吉成 孝夫		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	1・2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
福祉事務所などでの行政事務経験はないが、2008年12月の年越し派遣村の活動や、墨田区でボランティアとして、ホームレス支援活動に参加した経験がある。貧困や格差問題の解決は今や日本社会の最重要課題である。問題を抱える人々の視点からこれらの問題に接近する態度を共に学びたい									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新 社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援(中央法規)					・必ず学習プリントを読み返し、授業の振り返りを行う ・小テストは何度もやり直し定着を図る				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション				9	【授業単元】 生活保護の財源と予算(教科書第4章第8節)			
	【到達目標】 ①本講座で具体的に何を学ぶのかを理解し、学習意欲が持てるようになる ②日本及び諸外国の公的扶助制度を概観する中で、公的扶助の概念を理解する ③公的扶助制度と社会保険制度の違いを理解する					【到達目標】 ①生活保護費の基本的性格を理解する ②生活保護費に関する費用を理解する ③国家予算と保護費の関係を理解する			
2	【授業単元】 貧困・低所得者問題と社会的排除(教科書第2章)				10	【授業単元】 最低生活保障水準と生活保護基準(教科書第5章)			
	【到達目標】 ①貧困・低所得とは何か(概念定義)を生活および社会階層の観点から理解する ②貧困の定義および社会的排除に関して欧米の研究成果と貧困の実態調査を理解する ③現代における貧困・低所得者問題の諸相について理解する					【到達目標】 ①最低生活保障水準の考え方を理解する ②生活保護基準について理解する ③最低生活および生活保護最低基準の実際を学ぶ			
3	【授業単元】 公的扶助制度の歴史①ー欧米ー(教科書第3章・第1節)				11	【授業単元】 生活保護の動向(教科書第6章)			
	【到達目標】 ①イギリスを中心に旧救貧法制定の背景と内容及び社会構造上の意義について理解する ②1834年の新救貧法の歴史的背景とその内容及びその影響について学ぶ ③資本主義経済体制の進展の中で、貧困問題の解決に救貧法では解決できず、やがて様々な要因の下で、公的扶助が誕生、さらに現代的展開を理解する					【到達目標】 ①被保護者の数及び被保護世帯数の最近の動向を理解する ②保護の開始及び廃止について最近の動向を理解する ③特に医療扶助・介護扶助の最近の動向について理解する			
4	【授業単元】 公的扶助制度の歴史②ー日本ー(教科書第3章・第2節)				12	【授業単元】 生活保護の運営・実施体制(教科書第8章)			
	【到達目標】 ①日本近代史における救貧法の歴史的変遷とその内容を理解する ②第2次世界大戦後の生活保護法の制定とその内容及び意義について理解する ③近年の貧困問題の深刻化に伴う生活保護法の改正について理解する					【到達目標】 ①中央政府・地方政府の役割を理解する ②福祉事務所の役割を理解する ③社会福祉主事の役割を理解する			
5	【授業単元】 公的扶助の役割と意義(教科書第1章第2節)				13	【授業単元】 低所得者対策の概要①(教科書第7章第1節～第3節pp163～186)			
	【到達目標】 ①社会保障体系の中の公的扶助の位置と役割を理解する ②セーフティネット機能としての公的扶助の意義を理解する ③ナショナルミニマムとしての公的扶助の意義と役割を理解する					【到達目標】 ①生活困窮者自立支援法の概要とその事業について理解する ②生活福祉資金制度の成立過程とその概要について理解する ③社会手当制度の沿革および内容について理解する			
6	【授業単元】 生活保護制度の仕組み①(第4章第1節～第2節)				14	【授業単元】 貧困・低所得者に対する相談援助活動(教科書第9章)			
	【到達目標】 ①生活保護法の目的を理解する ②生活保護法の基本原理を理解する ③保護の原則を理解する					【到達目標】 ①生活保護制度における相談援助活動の特徴とプロセスを理解する ②多職種との連携・協同について理解する ③相談援助活動の具体例を通して実際の援助例を学び理解を深める。			
7	【授業単元】 保護の種類・内容・方法及び保護施設(第4章第3節～第4節)				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ①生活扶助をはじめとした8種類の扶助について理解する ②生活保護における方法の意味を理解する ③保護施設の概要と種類及び主な役割を理解する					【到達目標】 これまで学んだ知識を試験問題に取り組み中で定着させる 振り返りおよび解答解説を行う。			
8	【授業単元】 被保護者の権利と義務(教科書第4章第5節～第7節)				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ①被保護者の権利と義務を理解する ②いわゆる不正受給問題についての実態を調べ、どうあるべきかを学ぶ ③不服申し立て及び行政事件訴訟について理解する								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
強は何よりも言葉の定義から始まるので、絶えずわからない言葉が出てきたら、国語辞典などを利用して意味内容を理解するよう努めてください。また、漫然と勉強するのではなく、日々の出来事と結び付け、疑問を持つように訓練することが大切です。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門) I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	前田明乃		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を習得する 2. ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する 4. 地域支援の特性、課題解決に向けた、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
高齢者福祉施設、地域包括支援センターのセンター長として相談援助業務に18年間携わる。現在も、成年後見や保育事業、多世代による地域づくりのサポートに携わる経験をもつ教員が、高齢者福祉制度の歩み並びに現代における高齢者支援の実際を交えながら、社会福祉士に求められる基礎的な知識や考え方を習得する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
授業時に配布する資料、タブレット(Microsoft Teams)					地域共生社会の実現に向けて、急速かつさまざまな変化が生じる社会、多様な社会と価値観に対する柔軟性を意識化する。幅広い分野の情報に関心を持ち、多角的な視点で考える。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 導入ガイダンス 現在の自分から望ましい自身の姿を想像し、目標を立てる				9	<b>【授業単元】</b> 意思決定支援～自己決定が困難な対象への支援			
	<b>【到達目標】</b> ・現在の自分を主観的に理解することができる ・どのようなことがやりたいのか、自分の得意と不得意なことは何かを言語化することができる ・興味や関心をもって積極的に取り組みたい内容を言語化し、他者に伝えることができる					<b>【到達目標】</b> ・ニーズとデマンドの違いについて理解し、振り分けて考えることができる ・意思形成支援と意思表出支援の違いについて理解する			
2	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワーカーとして望ましい価値観は自身の価値観に則しているかを客観的に知る				10	<b>【授業単元】</b> 家族支援～インテーク、家族それぞれへのアプローチ			
	<b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワーカーとしての専門的価値観について「社会福祉士倫理綱領」または「ソーシャルワークのグローバル定義」とは、読み解き、自身の大切にしている価値観に当てはめてみよう					<b>【到達目標】</b> ・会話に根拠を用いた話し方や、言語を伴わない非言語(ノンバーバル)的表出法の意義、目的、効果を理解し、有効に使えるための理解をし実践することができる ・家族間の関係性、力動を把握し図式化することができる ・家族それぞれが抱える感情に寄り添い、信頼関係構築に向けた働きかけを理解することができる			
3	<b>【授業単元】</b> 援助者としての意識を形成する				11	<b>【授業単元】</b> 拒否的な対象への介入			
	<b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワーカーとしての自己覚知をする「私は・・・(自己紹介)」 ・大切にしている価値観を意識して人との会話を実践してみる					<b>【到達目標】</b> ・ケース発見にむけたアウトリーチの効果的実践を意識することができる ・多面的、包括的アセスメントを実践することができる ・リスク予測、緊急性の判断について根拠を示すことができる ・ニーズの明確化とアカウンタビリティの重要性を理解することができる			
4	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワーカーの基本的姿勢【価値】～価値の順位				12	<b>【授業単元】</b> 複数課題を抱えるひとり親家庭への支援①			
	<b>【到達目標】</b> ・自他の価値観の共有、受容、共感「価値の順位」を話しあい、相手の意見を受け止めながらも自己の意見を伝えることができる ・意見の相違が生じた時にどのように作用することで関係性構築に結ぶか主体的に考えることができる					<b>【到達目標】</b> ・親子それぞれに対して適切な面接技法を用いて思いを引き出すことができる ・アセスメントから取り進むべき課題の優先順位を検討することができる			
5	<b>【授業単元】</b> ソーシャルワーカーの基本的姿勢【ジレンマ】と他者理解				13	<b>【授業単元】</b> 複数課題を抱えるひとり親家庭への支援②			
	<b>【到達目標】</b> ・自己の中で譲れない葛藤が生まれた時に、自己の中で【ジレンマ】が生じる。それはなぜか、どんな気持ちか。ジレンマをあえて共有し、グループの中で伝え合うことができる ・自己を統制することの大切さを知る					<b>【到達目標】</b> ・支援方針をたて、具体的な支援内容を示すことができる(プランニング) ・多職種連携の目的や、効果、手段を知る ・支援の評価から終結の判断と必要なアフターケアを考えることができる			
6	<b>【授業単元】</b> 自分流ソーシャルワーカーの価値、態度、言葉～ロールプレイ				14	<b>【授業単元】</b> 社会資源開発～アドボカシー			
	<b>【到達目標】</b> ・相談援助におけるルールや守るべきことは何かをロールプレイを基にそれぞれの立場で体験し気づきを得る ・気づきを他者と共有し、相談援助において必要な心構えはどういうことかを理解することができる					<b>【到達目標】</b> ・社会資源とは何か、実在する資源等を用いてフォーマル、インフォーマルの別を示すことができる ・クライアントのニーズ充足に必要な社会資源を理解する ・ケースアドボカシーとコース(クラス)アドボカシーを実践するにあたってソーシャルワーカーの			
7	<b>【授業単元】</b> 災害時支援～ソーシャルワーカーの役割				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験 解説および前期学習内容の振り返り(まとめ)			
	<b>【到達目標】</b> ・災害時の暮らしの変化と生活課題を考えることができる ・被災者の感情の変化を理解し、顕在化する問題だけでなく中長期的に必要な支援を提案することができる					<b>【到達目標】</b> ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる			
8	<b>【授業単元】</b> 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする) 災害時支援～介入の留意点と連携構築				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験(記述形式含む)で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	<b>【到達目標】</b> ・災害時における被災地の実情を理解することができる ・ソーシャルワーカーに求められる役割とできること、すべきことは何かを考えることができる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
毎授業ごと、科目シラバスから自身の学びのポイントを明確化しましょう。教室の中は安心安全な場として、他者の意見を聴き、話してください。否定せず広い視野で受け止め互いを尊重し、思考を繰り返し、自分の成長に活かしてください									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	前田明乃		
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を習得する 2. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する 3. 社会資源の活用の意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する 4. 個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
高齢者福祉施設、地域包括支援センターのセンター長として相談援助業務に18年間携わる。現在も、成年後見や保育事業、多世代による地域づくりのサポートに携わる経験をもつ教員が、高齢者福祉制度の歩み並びに現代における高齢者支援の実際を交えながら、社会福祉士に求められる基礎的な知識や考え方を習得する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
授業時に配布する資料、タブレット(MicrosoftTeams)					地域共生社会の実現に向けて、急速かつさまざまな変化が生じる社会、多様な社会と価値観に対する柔軟性を意識化する。幅広い分野の情報に関心をもち、多角的な視点で考える。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 地域支援～アウトリーチと地域アセスメント				9	【授業単元】 ネゴシエーション			
	【到達目標】 ・地域はネットワークで支えられていることを理解する(地縁組織、住民のストレングス) ・住民にとっての"地域を知る"視点を意識化することができる ・ソーシャルワーカーとしてどのようなことに焦点化し行動すればよいか考えることができる					【到達目標】 ・利害の対立とはどういうことが、言語化することができる ・対立の背景にある価値観について考えることができる ・利害を調整する視点をもち、ネゴシエーションを実践することができる			
2	【授業単元】 地域支援～住民主体の計画立案				10	【授業単元】 ソーシャル・マーケティングの実践～ソーシャルアクション			
	【到達目標】 ・地域特性をふまえ、地域に対する住民のニーズや課題を言語化することができる ・地域課題に対する取り組みの根拠を説明することができる ・住民主体の活動となる実践計画をたてることができる					【到達目標】 ・身近な問題に対して、期待するソーシャルアクションを考えることができる ・ソーシャル・マーケティングを活用した提案ができる ・結果予測を数値化、言語化することができる			
3	【授業単元】 社会資源開発～アドボカシー				11	【授業単元】 スーパービジョン①			
	【到達目標】 ・社会資源と地域をつなぐためにソーシャルワーカーはどこへ、どのように働きかけるのか(具体的手段)を考えることができる ・社会資源開発の展開過程を段階的に抽出し、評価方法までを含む実践計画をたてることができる					【到達目標】 ・スーパービジョンのもつ3つの機能を、実践場面を用いて説明することができる ・自他の経験を振り返り、「人から教わる」際の理想と課題を言語化することができる			
4	【授業単元】 ネットワーク構築に向けた会議運営～準備				12	【授業単元】 スーパービジョン②			
	【到達目標】 ・会議開催に向けて手順をふんだ事前準備を実践することができる ・会議の目的とゴールを明確化することができる ・聞き手は専門職ばかりではないことを考慮した、分かりやすい資料作成ができる ・会議当日の問題予測にも備えた役割分担ができる					【到達目標】 ・ロールプレイを通して、スーパーバイザーとしての感情や思考を客観的に整理することができる ・ロールプレイを通して、スーパーバイザーとして何を意識すべきかを理解する			
5	【授業単元】 ネットワーク構築に向けた会議運営～プレゼンテーション、ソーシャルアクション				13	【授業単元】 事例研究、事例検討①			
	【到達目標】 ・聞き手は専門職ばかりではないことを考慮した、分かりやすい説明ができる ・会議後の地域、社会の変革、クライアントや住民自身に影響を与えたと思われる変化を考察、評価することができる					【到達目標】 ・事例をもとにさまざまな立場から多角的に問題を把握し、疑問を言語化することができる ・事例検討会の目的とゴールを明確化することができる ・開催に向けた事前準備と役割分担ができる			
6	【授業単元】 組織運営～ソーシャルアドミニストレーション①				14	【授業単元】 事例研究、事例検討②			
	【到達目標】 ・事例ロールプレイを通して、施設(事業所)で起きている事柄の何が問題かを考えることができる ・利用者、家族、職員それぞれの感情を言語化することができる ・問題だと捉えた内容について法制度や倫理綱領などを根拠とした論理的説明ができる					【到達目標】 ・参加者の発言機会や気付きを投げかけるファシリテーションを意識することができる ・参加者全員で意見交換をし、検討の結論をまとめることができる ・メンバー相互に客観的評価を行い、自己の気付き、再確認を行うことができる			
7	【授業単元】 組織運営～ソーシャルアドミニストレーション②				15	【授業単元】 定期試験 解説および後期学習内容の振り返り(まとめ)			
	【到達目標】 ・意見の対立への効果的な介入(コンフリクトレゾリューション)を考えることができる ・組織内で生じている問題への解決方法を具体的に考えることができる ・組織内でのサービス評価や資源開発の必要性を提案することができる					【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、今後の学習取り組みを考えることができる			
8	【授業単元】 中テスト(第1～7回目までの授業範囲を出題対象とする) 組織運営～ケアカンファレンス				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験(記述形式含む)で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・ロールプレイ(利用者、家族、事業所職員) ・事例をもとに考えた組織改善、個別ケア内容等について話し合うことができる ・組織運営の改善も含めた、今後のケア方針について結論をまとめることができる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
毎授業ごと、科目シラバスから自身の学びのポイントを明確化しましょう。教室の中は安心安全な場として、他者の意見を聴き、話してください。否定せず広い視野で受け止め互いを尊重し、思考を繰り返し、自分の成長に活かしてくだ									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習指導(社会)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2	単位	総時間数	60	時間
【授業を通じての到達目標】											
① ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ② 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 ④ 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
① 実習及び実習指導の意義(スーパービジョン含む。) ② 多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 ③ 実際に実習を行う実習分野(利用者理解含む。)と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ④ 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解 ⑤ 実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ⑥ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 ⑦ 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ⑧ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価 ⑨ 巡回指導 ⑩ 実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ⑪ 実習の評価及び全体総括会											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えが求められる。						実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。					



## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習(社会)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	IT医療ソーシャルワーカー科	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	3	単位	総時間数	180	時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>											
① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ② 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 ③ 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。											
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>											
社会福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>						<b>【授業時間外における学習】</b>					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
<b>授業計画</b>											
① 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ② 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成 ③ 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ④ 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価 ⑤ 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ⑥ 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ ⑦ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ⑧ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。) ⑨ 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ⑩ ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 ・アウトリーチ ・ネットワーキング ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>						<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢で取り組むことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					